令和2年度年報

特定医療法人社団三光会
誠愛リハビリテーション病院

ふるさとの六地蔵さん

故郷の山里にひっそりと佇む六地蔵さんです。幼いころより墓参のたびに、いつも水をかけ手を合わせてきました。六道あまねく衆生を救う眼差しに、心静まり癒されます。そして、かくありたいとも思います。いつかは、ほんのいっときでも、と。

渡邊 義将

目　次

理念と基本方針 4
患者さんの権利宣言 5
患者さんへのお願い 5
巻頭言 6
沿革 9
病院概要 10
関連施設 11
年間行事 12
部内活動 13
医局 14
看護部 19
リハビリテーション部 22
福祉部 31
診療部 35
管理部 39
患者動向 41
平均在院患者数 42
新入院患者数 42
患者延べ人数 43
入院患者稼働率 43
病棟別入院・転入患者数 44
病棟別退院・転出患者数 44
入院患者　ＩＣＤ－１０分類別 45
退院患者　ＩＣＤ－１０分類別 45
ＩＣＤ－１０別退院患者平均年齢・平均在院数 46
外来平均患者数 47
外来初診患者数 47
外来患者延べ人数 48

委　員　会　活　動 49

医療安全管理委員会 50

事故対策委員会 52

医療品安全管理委員会 56

医療機器安全管理委員会 57

院内感染対策委員会 58

防災委員会 60

医療ガス安全委員会 61

労働安全衛生委員会 62

公用車運行管理委員会 63

個人情報保護委員会 64

薬事委員会 65

給食委員会 69

摂食嚥下チーム（ＥＳＴ） 70

カルテ開示委員会 72

倫理委員会 73

褥瘡対策委員会 74

図書管理委員会 75

広報委員会 76

サービス向上委員会 77

輸血療法委員会 78

Nutrition　Support　Team 委員会 79

フットケア委員会（ＦＣＴ） 81

認知症ケアチーム委員会（ＤＣＴ） 82

排泄ケアチーム委員会（ＣＳＴ） 83

編　集　後　記 85

理念

ひとりひとりの明日のために、
質の高いリハビリテーション医療を提供し、
患者さんの活動と社会参加を支援します。

基本方針

- 患者さんの人権を尊重し、個人情報を守秘します。
- 法令を遵守し、説明と同意のもと、安全で全人的な医療を行います。
- 活発な研修及び研究活動を展開し、先進的なリハビリテーション医療を提供します。
- 個々の患者さんに適した療養環境を整えます。
- 地域と連携し、社会に貢献できるチーム医療を目指ます。

患者さんの権利宣言

当院では次に掲げる患者さんの権利を尊重した医療を行います

1. 個人の尊厳とプライバシーを守る権利
2. 良質で適切な医療を公平に受ける権利
3. 自らのことを知り、説明を受ける権利
4. 医療行為を選択、そして決定する権利
5. セカンド・オピニオンを申し出る権利
6. 自分の診療に関し記録情報を得る権利
7. 日常生活に配慮した医療を受ける権利

患者さんへのお願い

当院では患者さんの権利を尊重するとともに、以下のことをお願いしています。

ご理解とご協力をお願いします。

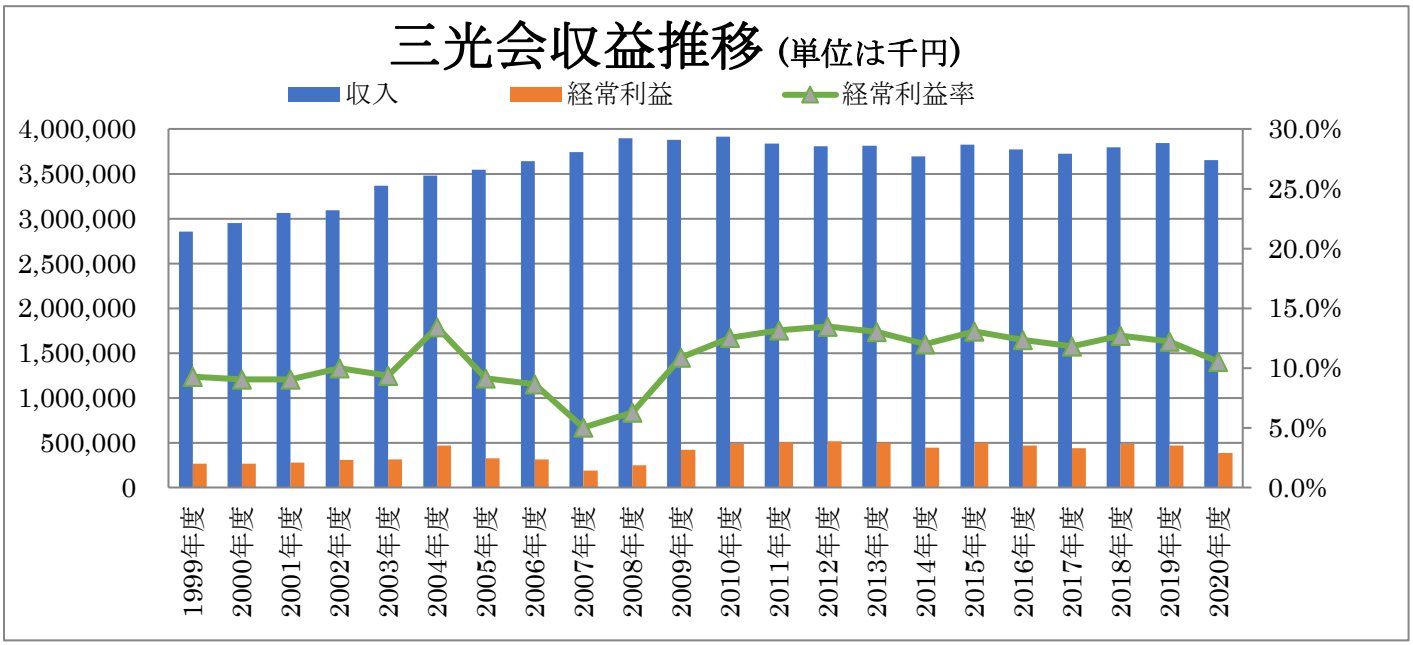
1. ご自身の健康状態の変化に気づかれた場合は速やかにお伝えください。
2. 検査や治療などの医療行為は、十分な理解と合意の上、お受けください。
3. すべての患者さんが、快適な環境で適切な医療を受けることができるように、他の患者さんのご迷惑にならないようにご協力ください。

巻　頭　言

特定医療法人　社団　三光会　　理事長　　井林　雪郎

2020(R2)年度は新型コロナウイルス nCoV 感染症に翻弄され、三光会としても 3 蜜回避/マスク着用/手指消毒を基本とする感染対策や施設内クラスター発生防止に細心の注意と最大限の努力を迫られた 1 年でした。新年度早々の入社式(リハ専攻医 1 名、看護師 15 名、セラピスト 22 名)は海外旅行者の存在から 2 週間延期、4/1 より入院患者制限、外来リハ/通所リハ/フィットネスの休止を決定しました。その直後から初回の緊急事態宣言が発出され現在に至っています(1 回目 4/7-5/14; 2 回目 1/13-2/28 ; そして年度も変わり 3 回目の現在 5/12-6/20)。誠愛リハビリ病院においては、10 月から有料個別指導以外のフィットネスを最終的に完全閉所、12 月には通所リハを再び一時休止、本年 1 月からは第 3 病棟クラスター発生に伴い同病棟の入院リハ一時停止などを余儀なくされました。コロナ禍下の周辺急性期病院からの紹介転入院患者数の減少や受入れ病床の制限なども相俟って、三光会全体としては 2009 年以降でみると大きな減収減益に見舞われました。病院では 2019 年 10 月から第 3 病棟を、2021 年 1 月からは第 5 病棟を回復期リハ病棟入院料Ⅲ→Ⅰ/Ⅵに昇格させ、加えてこれら病棟に専従医を配置することで体制強化加算を取得し(それぞれ 2020 年 8 月～と 2021 年 1 月～)、入院単価を上げることに尽力しました。初めて年間賞与を管理職ならびに一般職を問わず年率 4.375%(0.7 ヵ月/16 ヵ月分)削減とし、職員とそのご家族には大変ご迷惑をおかけしました。

透析部門や老健施設でも、感染対策を強化しつつ患者/利用者減少という状況における減収は止むを得ませんでしたが、法人全体の経常利益率につき 10%を切らないレベルに保持できた点は評価に値し心から感謝している次第です(ただし少額ながらコロナ関連補助金の入金あり)。年度変わりの 2021 年 4 月末からは、漸く nCoV ワクチン接種が進んできており、今後の運営・経営が僅かでも上向きに回復するよう、残りの病棟についても医師/看護師の増員と並行して回復期リハ病棟入院料Ⅰ/Ⅵへの昇格＋体制強化加算取得を目標に、焦ることなく地道かつ前向きな方策を計画中です。



2020 年度の法人全体の収益については、医業収入(36.5 億円/前年 38.4)、経常利益(3.9 億円/前年 4.7)が示す通り、大幅な減収減益となりました。法人としての自己資本率は 89.6%と資産は十分蓄積されたものの、今回の nCoV パンデミックが収束に向かわない限り、1 年では済まない減収減益／経常利益率の低下などもシナリオの一つに加え、新病院改築移転計画についても部分的再考を余儀なくされると考えています。

その他について

新病院改築移転：2017(H29)年 1 月より基本設計開始、2018(H30)年 8 月より実施設計に移行、2019(H31=R1)年より本館(東棟)建替予定であった病院建築については、オリンピックの影響を受けボルトなど建築資材不足やゼネコン建築業界経費昂騰に引き続く nCoV 感染症蔓延などの現状を鑑み、pending 状態。2020(R2)年 2 月より新棟(西棟)の建築会議を再開するも、緊急事態宣言発出(第 1 回目)のため Web 会議をその後数回開いたのみで、再度休止中。同年 4 月に入り nCoV の影響で病院は大幅減収減益となり、その後第 2,3 回目の緊急事態宣言もあり今後の計画見直しの可能性を探っているところ。今まで、自己資産ならびに予備力の強化は十分に図ることができているが、これから先の nCoV 感染状況につき楽観論が多いとはいえ不確定であり、長期に及べば世の中含め病院のシステムや働き方/生活の仕方が大きく変化していくものと思われる。nCoV 変異株や未知の新規感染症に備えて 将来の医療施設に必要な設備や導線その他の再検討が必須であることが明確となったが、大半がワクチン 2 回接種の目処がつき次第、焦らずゆっくり急いで仕切り直しの設計再検討/ゼネコン打診などの準備に取り掛かる予定である - 2021(R3)年秋～冬？

医局人事について：九大/福大より半年交代で 2 名のリハ専攻医(4/1～桑門想医師、10/1～野田智秀医師)が勤務、専門医の受験準備が完了した。当院小児科の黒川徹名誉院長が年内で退職(12/31)され、3/1 から神経内科専門医(井上文子医師)が非常勤医師として加わった(2021 年 4/1 からは常勤医師)。

研究面について：1)従来の九大脳外科との手指ロボットの共同研究 (Hand-Skeleton SMOVE；AMED 研究)16 例完了、2)Cyberdyne 社の HAL 腰型ロボットを用いた脳卒中片麻痺患者の歩行リハビリに関する臨床研究、新たに 3)脳卒中後片側上肢麻痺に対するリハビリ効果を探る多施設共同研究(福大筑紫病院の脳神経外科/放射線科 MRI 装置の協力を得ながら)にも参画し、症例を集積した。

<思いつくままに追記事項>

●今回の nCoV-pandemic は、外来/フィットネス/入院ならびに通所リハビリの在り方について真剣に考え直す良い機会となった。病院外来/日当直については非常勤/嘱託医師の勤務条件その他の見直しを継続、併設のフィットネス(あいあい倶楽部)は完全閉所、入院病床数は近々200 未満に減床し単価を上げる工夫を継続、居宅支援は加算取得により赤字を解消(2020 年 11 月～)、訪問看護・訪問リハは通所利用者の一部がシフトしたことや当院常勤医師が加勢することで収益微増の可能性が出てきた (医局の負担増については更なる医師雇用を考えている)。

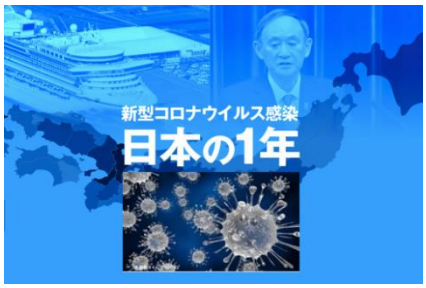
●病院機能評価認定更新(H30 年が 4 回目更新の年に相当)は非受審と決定したが、nCoV 時代到来によりその内容や意義は大変貌したと思われる。

●画像転送読影診断システムの謝礼は法人(原土井病院)ではなく読影医師/放射線技師に直接支払うシステムに変更した。

●高次脳機能障害患者対象の自動車運転装置(SiDS)、職員出退勤タイムレコーダーは導入後 順調に役立てられ有効に使われている。

●誠愛リハビリ病院、老健カトレアに次いで、三光クリニックにも電子カルテシステムを導入予定であったが、nCoV 感染防止陰圧室の設置を急ぐこととし、暫く pending とした。

●コロナ収束後の回復期リハビリ病院としての売りの一つとして、退院後の再来あるいは通所リハビリ以外に有料個別指導も可能なこと、装着に手間取らない腰型 HAL ロボットリハなどを取り入れたフレイル予防、患者/利用者目線の新たなリハビリ体制を積極的に宣伝・展開して行きたい。



年報の発刊に寄せて

誠愛リハビリテーション病院　　院長　　長尾　哲彦

2021 年度は世界中が新型コロナに終始した 1 年でした。誠愛リハビリテーション病院でもウイルスの侵入を防ごうと職員一丸となって懸命に努力してくれましたが、完全に防ぎきれなかったのは私の不徳の致すところだと自戒しています。

臨床面では、感染防御のために入院患者数の制限をしたり、外来や通所リハビリテーションの利用制限をかけたりせざるを得ない状況が続き、患者の皆様には大変なご不便をおかけしました。面会制限もご高齢の方々にはさぞかし辛かったであろうと拝察します。

学術的な活動も対外的にはほぼ全面的にストップしてしまいましたが、それでも WEB 学会・講演会などを利用しながら、何とか活路を見出していく努力は続けてきました。

どんな困難な状況に立ち至っても、医療者としての矜持をもって前に進んできた本院の 1 年の記録がここにあります。世界の歴史に残るパンデミックの中で、職員がどのように悩み、耐え、活動したかの貴重な記録でもあろうかと思います。引き続き新型コロナとの戦いは続きますが、感染終息へ向けての一里塚としてこの年報を残したいと思います。どうかご笑覧ください。

沿　革

昭和６３年　３月	大野城市に「誠愛病院」開設（２１０床）
	山下茂雄理事長就任
	山下貴史院長就任
	結核指定医療機関、原爆被害者指定病院、生活保護指定
昭和６３年　７月	山下貴史理事長就任
平成　５年　７月	「誠愛病院」を「誠愛リハビリテーション病院」に改称
平成　６年１０月	病院隣接地に「老人保健施設カトレア」を併設
平成１１年　７月	「訪問看護ステーション誠愛」開設
平成１２年　４月	「居宅介護支援事業所カトレア」開設
	「介護老人保健施設カトレア」へ名称変更
平成１４年　７月	回復期リハビリテーション病棟（36 床）開設
平成１５年　１月	黒川徹院長就任
平成１５年　７月	回復期リハビリテーション病棟（40 床）増設
平成１５年１１月	医療機能評価機構認定病院として認定される
平成１６年　９月	Ｒ＆Ｉの長期優先債務格付けにて「ＢＢＢ」取得
平成１７年　１月	亜急性期病棟（10 床）開設
平成１７年　２月	日本脳卒中学会認定教育研修病院に認定される
平成１７年１０月	電子カルテシステム導入
平成１８年１０月	「訪問リハビリテーション事業所」開設
平成１８年１１月	「通所リハビリテーション誠愛」　開設
平成１９年　４月	回復期リハビリテーション病棟（40 床）増設
	「メディカルフィットネス あいあい倶楽部」開設
平成１９年　８月	黒川徹理事長就任
平成１９年１０月	黒川徹理事長辞任
平成１９年１１月	小野山薫理事長就任
平成２０年　３月	黒川徹院長辞任
平成２０年　４月	井林雪郎院長就任，黒川徹名誉院長就任
平成２１年　３月	病院機能評価（Ver. 5）再認定
平成２１年　４月	日本老年医学会認定施設に認定される
平成２２年　５月	亜急性期病棟（2 床）増床
平成２３年１１月	日本リハビリテーション医学会研修施設に認定される
平成２５年　３月	国税庁より特定医療法人としての承認を得る
平成２６年１１月	病院機能評価（3rdG:Ver.1.0）再認定
平成２６年　４月	回復期リハビリテーション病棟（54 床）増設
平成２６年　８月	病床数を 210 床から 206 床に変更
平成２７年１１月	井林雪郎理事長就任
平成２９年１０月	回復期リハビリテーション病棟（36 床）増設
	全病棟回復期リハビリテーション病棟に変更
平成３０年　４月	長尾哲彦院長就任

病院概要

理 事 長　　井林　雪郎
病 院 長　　長尾　哲彦
診療科目　　リハビリテーション科
　　神経内科
　　内科
　　整形外科
　　小児科
診療時間　　平　日　AM 9：00～PM12：30
　　PM 1：30～PM 5：00
　　休診日　土曜日、日曜日、祝日
病 床 数　　206 床
　　回復期リハビリテーション病棟　206 床
指　　定　　身体障害者法、生活保護法、労働者災害補償保険法、原爆被爆者法、
　　結核予防法
認　　定　　日本医療機能評価機構認定病院
　　日本リハビリテーション医学会研修施設
　　日本脳卒中学会研修教育病院
　　日本老年医学会認定施設
施設基準　　脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
　　回復期リハビリテーション病棟入院料、集団コミュニケーション療法料
　　呼吸器リハビリテーション科（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）
医療機器　　ヘリカル CT
　　三次元動作解析装置(VICON)
　　X 線透視装置（ビデオ嚥下造影検査）
　　カラードップラーエコー
　　近赤外光イメージング装置(NIRS)
　　ＶＥＰ80

当院は、主に脳血管疾患障害に関するリハビリの専門病院です。150 名以上のセラピストにより幅広いリハビリを提供しています。また、併設の介護老人保健施設カトレア、居宅介護支援事業所カトレア、訪問看護ステーション誠愛、メディカルフィットネスあいあい倶楽部と連携し、患者さんの退院後のケアの充実にも努めています。

関連施設

<table>
<tr><th>施設</th><th>所在地</th><th>開設年月</th><th>代表窓口</th><th>受付電話</th></tr>
<tr><td>介護老人保健施設
カトレア</td><td>〒816-0956
大野城市南大利 2-7-1</td><td>平成 6 年
9 月</td><td>施設長
岩瀬　豊子</td><td>℡　092-595-6101</td></tr>
<tr><td colspan="5">病状の安定した高齢者の方が住み慣れた地域で親しい人々に囲まれて自立した生活を送れるように、質の高いリハビリテーションや心地よい介護サービスを提供します。
当施設では、ご利用者様がご家族様、地域の方々、ボランティアの方々に囲まれて快適に過ごせるように明るい雰囲気作りを大切にしています。</td></tr>
<tr><td>居宅介護支援事業所
カトレア</td><td>〒816-0956
大野城市南大利 2-7-2</td><td>平成 12 年
4 月</td><td>管理者
高尾　祐司</td><td>℡　092-595-1350</td></tr>
<tr><td colspan="5">ご利用者様が住み慣れた自宅で安心して生活を送れるように、十分な話し合いを行い、ご利用者様の選択に基づき、適切なサービスが提供できるように他のサービス事業者や医療機関と連携を取りながら支援を行っていきます。</td></tr>
<tr><td>訪問看護ステーション
誠愛</td><td>〒816-0956
大野城市南大利 2-7-2</td><td>平成 11 年
6 月</td><td>施設長
荒武　裕子</td><td>℡　092-595-8021</td></tr>
<tr><td colspan="5">赤ちゃんから高齢者の方まで家庭において療養が必要な方に、住み慣れた環境で安心して生活が送れることを目的としています。
かかりつけ医師の指示を受けて訪問看護師・理学療法士・作業療法士などが互いに連携しながら定期的に訪問し、サービスを提供いたします。</td></tr>
<tr><td>メディカルフィットネス
あいあい倶楽部</td><td>〒816-0956
大野城市南大利 2-7-2</td><td>平成 19 年
6 月</td><td>理学療法士
坂口　重樹</td><td>℡　092-595-9703</td></tr>
<tr><td colspan="5">令和 3 年 10 月よりパーソナルトレーニングのみ。</td></tr>
<tr><td>三光クリニック</td><td>〒810-0044
福岡市中央区六本松
4-9-3</td><td>昭和 54 年
3 月</td><td>院長
斉藤　喬雄</td><td>℡　092-713-0468</td></tr>
<tr><td colspan="5">外来の人工透析（血液透析）を行っている専門施設です。 血液透析療法を受けている患者さんが、快適に過ごせるように、それぞれの状態に合った治療を提供しています。昼間透析の他、社会復帰にお役に立つように、夜間透析も週 6 日（日曜日を除く）行っています。
また、ご高齢の方や視力や歩行に障害のある方の通院負担が少しでも軽減できればと考え、送迎のサービスも行っております。</td></tr>
<tr><td>福岡脳血管疾患研究所</td><td></td><td>平成 15 年
4 月</td><td></td><td></td></tr>
</table>

令和２年度　年間行事

令和２年

４月　１６日　　入社式
９月２４日　健康講座（筒井公民館）
１０月　８日　健康講座（下大利団地公民館）
１０月　８日　健康講座（大野城市役）
１１月　５日　　院内勉強会（アンケート方式）
１１月　６日　　健康講座（中公民館）

令和３年

１月　４日　　年賀式
３月３０日　院内勉強会（アンケート方式）

※院内勉強会の内容はP55を参照

【入社式の様子】

部内活動

医局

看護部

リハビリテーション部

福祉部

診療部

管理部

医　局

文責：医局長　郷田　治幸

＜理念＞

ひとりひとりの患者さんに質の高いリハビリテーション医療を提供すべく、生涯学習の精神を持ち、日々の研鑽に努めます。

＜基本方針＞

・常に新しい医療知識の修得を心がけ、患者さんから信頼されるよう人間性の向上に努めます。
・科学的根拠に基づいた医療を、分かりやすく説明し、同意の上に実行します。
・医の職業倫理と患者さんの権利を念頭に、日々の診療を行います。
・患者さん中心のチーム医療を推進するため、他職種と連携をとり行います。

＜活動報告＞

2020 年度の医局は、理事長、院長、名誉院長、統括副院長の４名のほか、常勤および非常勤（週 3 日以上）１０名の体制で診療を行った。リハビリテーション科専攻医として、前半、桑門想医師、後半、野田智秀医師が当院にて研修を行った。

今年度の年間入院患者受け入れ総数は 710 人であった。死亡患者は 3 例で、肺炎、尿路感染に伴う敗血症例、うっ血性心不全例および義歯による窒息と思われる例であった。急性期病院への緊急転院は 45 例で、内訳は、脳卒中疑い、水頭症増悪等の脳神経疾患 22 例、イレウス、消化管出血などの腹部緊急症 7 例、肺炎 6 例などであった。

新型コロナウイルス感染症、COVID-19 の世界的大流行が、当院の診療にも大きく影響した。国内、近隣の流行情報、緊急事態宣言の状況に応じ、入院患者受け入れ時の対策、外来リハビリ制限、面会制限などの対策を行った。

回復期病棟の体制強化のため、7 月より石松義弘副院長が３病棟の専従医として従事、11 月より砥上妃美子医師が５病棟専従医として従事することとなった。

今年度の学会発表は、国内学会総会にて１題発表を行った。種々の研究会での発表や講演を行なったが、今年度は、新型コロナウイルスに関連して研究会等の開催自体が限定的であった。（下記参照）

九州大学脳神経外科と連携して行なっていた、手指ロボット SMOVE 研究の登録実施を完了した。また、富士フイルム富山科学株式会社の脳卒中片側上肢麻痺に対するリハビリテーション実施患者と対象とした薬剤の効果を見る治験に参加し、登録を開始した。

＜業績＞

1. 論　文　　（論文のみ 2020 年 1 月～12 月の 1 年分掲載）

年	種別	著者	論文題名	誌名
2020	和文総説・その他	長尾哲彦	PCR と刃物	日臨内ニュース 152 号, 12-13 2020
2020	和文総説・その他	石倉宏恭、長尾哲彦	対談：新型コロナウイルス感染症患者への救急対応	臨牀と研究 97（12）：74－79、2020
2020	和文総説・その他	山崎幸司、長尾哲彦	対談：新型コロナウイルス感染症患者への救急対応	臨牀と研究 97（12）：74－79、2020
2020	和文総説・その他	近藤彰、長尾哲彦	ACP(アドバンス・ケア・プランニング）での「私のリビングウィル」小冊子活用指針	日本臨床内科医会会誌 35(4):308, 2020
2020	著書	長尾哲彦	つながる！臨床検査データから患者を知る	医学と看護社 東京　2020
2020	著書	長尾哲彦	問診力養成道場（第 2 版）	医学と看護社 東京　2020

2. 学　会　（2020 年度）

年	種別	演者名	演題名	学会名
2020 年度	国内学会	砥上妃美子、鍵山智子、横山葉子、佐竹孝之、長尾哲彦、井林雪郎	リハビリテーション効果に及ぼす因子の臨床的検討 - 脳梗塞の病型を中心に -	第 57 回日本リハビリテーション医学会　学術集会, 2020, 京都, 8
2020 年度	国内学会	大田瑞穂、山田辰樹、鍵山智子、横山葉子、長尾哲彦、井林雪郎	抗力を備えた継手付き体幹装具の麻痺側トウクリアランスを構成する因子に対する効果	第 57 回日本リハビリテーション医学会　学術集会, 2020, 京都, 8
2020 年度	国内学会	山田辰樹、大田瑞穂、坂本陛京、青木淳、菊池尊徳、岸本久哲、	油圧制動付短下肢装具 Gait Solution による回	第 57 回日本リハビリテーション医学会　学術集

		鍵山智子、横山葉子、長尾哲彦、井林雪郎	復期脳卒中片麻痺患者の歩容変化	会，2020，京都，8
2020年度	国内学会	大田瑞穂、坂口重樹、田邉紗織、鍵山智子、横山葉子、長尾哲彦、井林雪郎	高齢の脳卒中片麻痺者に対するHAL腰タイプを使用した運動療法の効果	第31回日本老年医学会九州地方会，2021，福岡，2

3.研究会ほか　（2020年度）

年	種別	演者名	タイトル	講演会など名称	開催地	月日
2020年度	研究会講演	井林雪郎、長尾哲彦、ほか全ての医局、他部署のスタッフ	入職時オリエンテーション	院内オリエンテーション	大野城市（院内）	4/1-4/10
2020年度	座長司会等	井林雪郎	△日本脳卒中学会（STROKE2020）「患者支援」のセッション：一般口演6題座長	STROKE2020	横浜市 Webinar	8月24日
2020年度	班会議	井林雪郎	脳卒中における緩和療養／生命倫理に関するPT会議（第1回）	脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関するPTによるガイドライン策定会議	京都市発信 Webinar	10月9日
2020年度	講義	長尾哲彦	患者のための歯科・医科連携	福岡歯科大学学生講義	福岡市	10月9日
2020年度	大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学#1/5	聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科 講義	久留米市	10月16日
2020年度	大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学#2/5	聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科 講義	久留米市	10月30日
2020年度	研究会講演	井林雪郎	脳卒中地域連携　～回復期のミッション～.	第123回聖マリア病院地域医療支援講演会	福岡市発信 Webinar	11月6日

2020年度	大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学#3/5	聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科 講義	久留米市	11月13日
2020年度	大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学#4/5	聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科 講義	久留米市	11月27日
2020年度	班会議	井林雪郎	脳卒中における緩和療養／生命倫理に関するPT会議（第２回）	脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関するPTによるガイドライン策定会議	京都市発信Webinar	12月11日
2020年度	大学院講義	井林雪郎	大学院講義：脳卒中学#5/5	聖マリア学院大学 大学院 看護学研究科 講義	久留米市	12月25日
2020年度	研究会講演	井林雪郎	脳卒中:基礎から臨床へ　～回復期リハの現状～.	第14回誠愛リラックスカンファランス	福岡市Webinar	1月20日
2020年度	講演	長尾哲彦	死に向き合う医療と介護	福岡市中央区多職種連携研修会	福岡市	2月9日
2020年度	班会議	井林雪郎	脳卒中における緩和療養／生命倫理に関するPT会議（第３回）	脳卒中における緩和と療養の生命倫理に関するPTによるガイドライン策定会議	京都市発信Webinar	2月19日
2020年度	講演	長尾哲彦	生き逝き人生とACP	福岡市中央区市民公開講座	福岡市	2月27日
2020年度	パネルディスカッション	長尾哲彦・他	保険診療レセプト審査の現状について	福岡県内科医会北九州ブロック保険診療懇話会	北九州市	3月4日
2020年度	座長司会等	井林雪郎	△基調講演「てんかん診療のピットフォール～失神との鑑別を中心に～」.誠愛リハビリテーション病院院長 長尾 哲彦先生の座長	脳梗塞を軸とした脳心連携WEBセミナー（筑紫エリア）	福岡市発信Webinar	3月5日
2020年度	講演	長尾哲彦	意識消失発作診療のピットフォール	脳心連携WEBセミナー	大野城市	3月5日
2020年度	座長司会等	井林雪郎	△特別講演「これからの脳卒中診療 ～かかりつけ医と脳卒中セン	心房細動週間 脈の日webセミナ	福岡市発信Webinar	3月8日

			ターの連携～」.九州医療センター副院長 岡田 靖先生の座長	ー（福岡市医師会）		
2020年度	座長司会等	横山葉子	△日本脳卒中学会(STROKE2020) 「看護1.口腔ケア・栄養」のセッション：一般口演座長	第46回日本脳卒中学会学術集会,2021,福岡, 3	福岡市Webinar	3月11日
2020年度	研究会講演	井林雪郎	脳卒中地域連携 ～回復期のミッション～.	脳卒中地域医療連携講演会（伊万里市医師会）	福岡市発進Webinar	3月19日
2020年度	パネルディスカッション	鍵山智子	上肢痙縮治療における連携	上肢痙縮治療連携セミナーin福岡	WEB講演会	3月29日

4.査　読　（2020年度）

年	雑誌名	査読者名	論文題名	返却月日	演者名
2020年度	Internal Medicine	長尾哲彦	リウマチ性多発筋痛症に関する論文	1月13日	

看　護　部

文責：看護部副院長　金山　萬紀子

＜理念＞

セルフケアの再獲得と適応促進への援助を行い、患者さんと家族の自立を目指した看護を実践します。

＜基本方針＞

- 対象者の意志を大切にする事を念頭におき、その人が自分の生活の場で再び生活できる（適応）よう、セルフケア能力の向上のために看護を実践する。
- 障害を受け入れ(適応)、病気の中に意味を見いだすことができるような看護を実践する。
- 障害を持った人々の自立へ向けて、機能回復から社会への統合まで、一貫した看護を実践するために、日々アセスメントと介入技術の向上に努める。
- 看護の重要概念である「人間・健康・環境･看護」について研究活動を行い看護の発展に、ひいては人々の健康と幸福のために、日々研鑽する。

＜活動内容＞

「セルフケアの再獲得と適応促進への援助を行い、患者さんと家族の自立を目指した看護を実践します」という看護部の理念を、実践の中で具体的に展開していくために、平成 10 年からロイ適応看護モデル（The Roy Adaptation Model）を基盤とした看護を実践している。

当院の患者の多くは脳卒中患者であり、運動機能障害や高次脳機能障害を有している。そのため、看護師は患者がセルフケアの再獲得ができるよう看護介入を行っている。質の高いリハビリテーション看護を提供できるよう、研究活動を行い日々研鑽している。

１．看護部管理体制（2020 年 4 月 1 日現在）

副院長　　金山萬紀子
看護部長　　中村真紀
看護部次長　　吉村綾子（慢性疾患看護専門看護師）
看護部次長補佐　　恵良知子

日本看護協会認定制度による専門看護師、認定看護師

専門分野名	人数
慢性疾患看護専門看護師 （脳卒中リハビリテーション看護）	2

２．2020 年度看護部目標

【2020 年度目標】	【活動実績】
1.財務の視点 ・新卒看護師の入職者数 5 名 ・回復期リハ病棟 3 から 1 へ類上げ	・2021 年度の新卒看護師 2 名入職 ・5 病棟を回復期 1 へ類上げ
2.患者満足の視点 ・安全な看護の提供（転倒・転落事故の減少） 目標：前年度比（168 件）5%減少 （160 件以下） ・面会の代替案の検討	・転倒件数 183 件、前年比 9%増 ・タブレットでの面会を導入
3.業務プロセスの視点 ・洗濯物等の荷物の円滑な受け渡し	・荷物の受け渡し業務のシステム構築
4.人材育成の視点 ・専門看護師の活用 ・看護研究の推進と研修会への参加 ・看護大学の実習の受け入れ	・国内学会 2 件 ・2G の実習受け入れ

財務の視点では、コロナウイルス感染症の影響で病院見学も中止となり、2 名の新卒看護師の確保に留まった。そのため、次年度の採用にむけ web セミナーの参加や web 見学会等を開催し、新卒看護師の確保のために活動を継続して行っていった。また、5 病棟を回復期 3 から回復期 1 へ類上げができたが、1 人当たりの夜勤回数が増加するなど課題も残った。次年度は、スタッフ数を増加し夜勤回数の低減をしていきたい。

患者満足の視点では、転倒・転落事故が前年度 168 件から 183 件であった。前年度と比べ 9%増加した。また、コロナウイルス感染症の感染者の増減に伴い、病院の面会が全面禁止や一部解除等の制限により、今までのような面会ができなかった。そのため、タブレットを導入してご家族との面会が継続してできるように環境を整えた。

業務プロセスの視点では、面会制限にともない、洗濯物等の受け渡し業務が新しく発生した。そのため、荷物の受け渡し場所の設置や病棟へ運搬など他部署と連携しシステムを構築することができた。

人材育成の視点では、福岡看護大学から 8G の実習受け入れを予定していたが、コロナウイルス感染者の増加により実習の受け入れが難しく、2G のみの受け入れとなった。

＜業績＞

1.学会発表

年	種別	演者名	演題名	学会名
2020年度	国内学会	原　健成[1)] 小浜さつき[2)] 日高艶子[2)]	抑制障害により排泄セルフケア不足を呈した患者に対する自己教示法を用いた看護介入の検討	第8回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会 web，2021，2
2020年度	国内学会	松延佳奈[1)] 中尾紗矢香[1)] 吉村綾子[1)] 日高艶子[2)]	注意障害と半側空間無視を呈した患者に対する環境調整と主意的役割の活用の検討	第8回日本ニューロサイエンス看護学会学術集会 web，2021，2

1）誠愛リハビリテーション病院，2）聖マリア学院大学看護学部看護学科，

2.講義

○聖マリア学院大学大学院看護学研究科（修士課程）講師
　金山萬紀子，中村真紀，吉村綾子
○聖マリア学院大学看護学部看護学科　講師
　吉村綾子

3.看護実習

○精華女子高等学校　看護専攻科 2 年生 7 名（2 グループ）、成人看護臨地実習Ⅱ
　6 病棟　2020.6.15～6.30　　2020.7.20～8.7

○聖マリア学院大学大学院　看護学研究科　健康・療養支援看護学領域
　慢性専門看護師コース　1 名　療養支援慢性看護学実習Ⅰ
　2020.8～9 月

○徳島大学大学院保健科学教育部博士前期課程　科目履修生 1 名、
　保健学専攻（CNS コース）1 名　脳神経看護学実習Ⅰ-1
　2020.9.14～18

○福岡看護大学　3 年生　10 名（2G），成人看護学　慢性期・終末期実習
　2 病棟　　：2020.9.28～10.16
　1 病棟　　：2020.10.19～11.6

リハビリテーション部

文責：副院長　赤松　泰典

＜理念＞

患者さん個々のニーズに応じた、最大限の機能回復と質の高い日常生活活動の獲得を目指したリハビリテーションを実践する。

＜基本方針＞

- 小児から高齢者までの障害を持った方に対し、入院から在宅にいたる継続的なリハビリテーションを実施する。
- 発症後の亜急性期から回復期では、最大限の機能回復と活動能力の獲得を積極的に行う。
- 生活期では、更なる機能性の向上と、環境適応能力の拡大を図る。
- ボバース概念を基礎とした神経リハビリテーションを展開し、質の高い日常生活の獲得を目指す。
- 行動障害に対しては、適応行動とコミュニケーション能力の向上を図りながら、社会適応行動を支援する。
- 地域社会との連携をとりながら、個々のニーズや状況に応じた在宅復帰や職業復帰と社会参加を支援する。
- リハビリテーション効果の検証に積極的に努める。
- 臨床に根ざした学術研究及び研修活動を積極的に行う。

＜活動内容＞

（1）リハビリテーション部について

当院はリハビリテーション専門病院として、小児から成人、高齢者までの幅広い年齢層の患者にボバース概念を基盤とした神経リハビリテーションを積極的に提供している。入院では脳卒中を中心とした中枢神経疾患、骨折などの運動器疾患、肺炎後の呼吸器疾患などの患者を対象に積極的な機能回復と生活障害の改善を行い、退院後できる限り住み慣れた地域での在宅生活へ復帰することを支援している。また継続的なリハビリテーションの実施を医療による外来リハビリテーション、もしくは介護保険での通所リハビリテーションなどで行うことで社会復帰、社会参加を支援している。

小児においては、外来で脳性麻痺を中核とした肢体不自由児や、広汎性発達障害を中核とした発達障害児に対し、乳幼児から就園就学に至るまで幅広い生活支援を行っている。

また併設機関は通所リハビリテーション誠愛（3-4 時間・1-2 時間）、介護老人保健施設カトレア、訪問看護ステーション誠愛、居宅介護支援事業所カトレアのそれぞれと連携を取りながら患者の在宅復帰や社会参加を支援している。

（２）施設基準

脳血管リハビリテーション料（Ⅰ）、廃用症候群リハビリテーション料（Ⅰ）、運動器リハビリテーション料（Ⅰ）、呼吸器リハビリテーション料（Ⅰ）、集団コミュニケ―ション療法料を算定している。

（３）スタッフ数（令和２年４月）

①法人内リハビリスタッフ総数：

理学療法士（PT）76 名、作業療法士（OT）64 名、言語聴覚士（ST）25 名、計 165 名。

②誠愛リハビリテーション病院：

理学療法士 64 名、作業療法士 51 名、言語聴覚士 23 名、計 138 名。

③通所リハビリテーション誠愛：

理学療法士 6 名、作業療法士 4 名　計 10 名。

④介護老人保健施設カトレア：

理学療法士 3 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 1 名、計 8 名。

⑤訪問看護ステーション誠愛：

理学療法士 3 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 1 名、計 9 名。

（４）業務実績

令和２年度は入院外来患者に対する提供単位数の実績の総数は 421,921 単位で昨年（445,006 単位）と比べ 23,085 単位の減少（マイナス 5.2%）である。入院患者の提供単位が昨年より 17,441 単位、外来成人が 2,548 外来の成人小児が 3,079 単位減少しており、コロナ禍の影響を大きく受けている。

令和元年度～2年度提供単位数の実績

	年月	全体	入院	外来	
				成人	小児
令和元年度	4月	37,508	34,186	1,098	2,216
	5月	38,600	35,274	1,118	2,208
	6月	36,996	33,549	1,213	2,234
	7月	38,010	34,257	1,239	2,514
	8月	37,126	34,100	1,048	1,978
	9月	37,014	33,601	1,167	2,246
	10月	37,274	33,655	1,226	2,393
	11月	36,003	32,494	1,188	2,321
	12月	37,236	33,763	1,187	2,286
	1月	37,111	33,721	1,111	2,279
	2月	34,405	31,317	1,057	2,031
	3月	37,723	34,411	1,212	2,100
	総数	445,006	404,328	13,864	26,806
	平均	37,084	33,694	1,155	2,234
令和2年度	4月	32,723	32,633	44	55
	5月	33,553	32,999	154	400
	6月	36,634	33,387	1,013	2,234
	7月	38,272	34,724	1,166	2,382
	8月	37,638	34,337	1,091	2,210
	9月	36,088	32,690	1,158	2,240
	10月	36,647	32,918	1,244	2,485
	11月	36,282	32,792	1,133	2,357
	12月	36,823	33,031	1,212	2,580
	1月	28,080	25,365	928	1,787
	2月	32,268	29,121	999	2,148
	3月	36,913	32,890	1,174	2,849
	総数	421,921	386,887	11,316	23,727
	平均	35,160	32,241	943	1,977

（５）最大限の機能回復と活動能力の獲得のための取り組みについて

ボツリヌス療法：

平成 28 年度から外来の脳卒中患者を対象に麻痺側上肢の痙縮に対して、ボツリヌス療法が開始された。リハ部としては注射直後のストレッチ治療を担当するとともに、導入前後の関節可動域、筋力や歩行の変化を計測している。

嚥下内視鏡検査（swallowing videoendoscopy：以下 VE）：

以前から導入されている嚥下造影検査（swallowing videofluorography：VF）に加え、平成 28 年度から VE を導入し、嚥下障害患者の咽喉頭粘膜の状態や声門閉鎖機能、分泌物の貯留・気道への流入の有無を視覚的に確認できるようになり、より細かな摂食嚥下機能の評価ができるようになった。

機能的電気刺激(FES)装置の導入：

平成 28 年度より伊藤超短波株式会社製の歩行神経筋電気刺激装置を導入し、麻痺筋の筋再教育を行い脳の可塑性を促通する治療を開始している。

体幹装具 Trunk Solution の導入：

平成 29 年度より、東京大学による共同研究を協力していた体幹装具 Trunk Solution が製品化され、すぐに導入し治療に使用している。

嚥下用電気刺激治療機器（バイタルスティムプラス）の導入：

平成 30 年度よりインターリハ株式会社製のバイタルスティムを導入した。嚥下障害の治療に特化した電気刺激機器であり簡便な操作で安全な嚥下治療が行えようになった。

Integrated Volitional control Electrical Stimulator（IVES）の導入：

OG 技研製の随意運動介助型電気刺激装置を導入し、脳血管疾患や運動器疾患で麻痺したり、動きが悪くなった筋に対して、電気刺激を用いて運動機能を改善させるための機器を通所リハビリテーションで使用している。

簡易自動車運転シミュレーター（SiDS）の導入：

竹井機器工業株式会社製のドライブシュミレーターを導入し、病気や交通事故などの要因により、高次脳機能障害を発生した運転免許保有者の運転再開可否の診断に役立てている。この検査システムは、認知反応検査、タイミング検査、走行検査、注意配分検査で構成されており、運転再開を適切に進める上で参考にしている。

JMS 舌圧計の導入：

摂食嚥下障害の方々の舌の筋力測定行っている。

訓練機器「ペコぱんだ」の導入：
舌の筋力を効果的に強化できる訓練機器で、口腔内に入れて舌圧を加えて舌の筋力向上を図るもので、「極めて柔らかめ」、「柔らかめ」、「やや柔らかめ」、「普通」の４段階あり患者の機能により使い分けて使用している。

HAL®腰タイプ 自立支援用（サイバーダイン社）の導入：
HAL®腰タイプをリハビリに利用することで、立ち上がり動作や歩行動作に必要な股関節機能の再生・改善につなげるように使用している。

オール・イン・ワン（サイバーダイン社）の導入：
オール・イン・ワンは、立位が不安定な方でも行動範囲に制限を受けることがないため、安全かつ快適に歩行訓練を行うために使用している。

（６）当院リハビリテーション部の３つの柱（①臨床・②教育・③研究）について

①臨床

入院：
206 床すべてが回復期リハビリテーション病棟であり、リハビリテーションに特化した体制をとっている。

リハビリテーション部の各病棟担当セラピストは専従性をとり配置されている。カンファレンスや密なコミュニケーションにより、多職種による連携をとりながら患者の在宅復帰、社会復帰を目指している。

また回復期リハビリテーション病棟では、365 日リハビリテーションを提供できる体制をとり、さらに日常生活に直接介入していくため、早朝や夕方の時間にもフレックスリハを実施している。

平成 28 年度の診療報酬の改定において、回復期病棟では６単位を超える疾患別リハビリテーションを実施していくためには機能的自立度評価（以下 FIM）の実績指数を入院時と退院時を比較し 27 を超えるように求められた。そのために実績指数と提供単位数を九州厚生局へ報告し、すべてクリアーしている。

また当院では３病棟と５病棟が回復期リハビリテーション病棟１、その他の病棟が回復期リハビリテーション病棟３を認可されているが、それに必要な FIM の実績指数、提供単位ともすべての病棟で目標を達成することができている。令和２年度の病棟別の内訳については以下に示す。

回復期リハビリテーション病棟 実績指数に関する報告状況（令和2年4月-平成3年3月）

	4月-9月		7月-12月		10月-3月	
	単位/人	FIM実績	単位/人	FIM実績	単位/人	FIM実績
1病棟	6.5	42.8	6.6	51.8	6.4	68.4
2病棟	6.7	48.5	6.5	47.1	6.3	51.9
3病棟	6.7	44.7	6.6	50.3	5.8	49.9
5病棟	6.8	50.6	6.7	52.3	6.3	48.4
6病棟	7.3	51.7	7.0	48.8	6.5	50.9

外来成人：
当院退院後の患者や、他院からの紹介された患者に対して、継続したリハビリテーションの必要性がある場合、リハビリテーションを実施している。対象としては主に脳血管障害などの中枢神経疾患、骨折などの術後の運動器疾患で回復途中にある患者である。また介護認定を受けている患者に対しては、介護保険での通所リハへの移行を促している。

外来小児：
脳性麻痺などによる肢体不自由児と、広汎性発達障害を主としたコミュニケーションや社会適応に問題がある発達障害児を対象に治療を行なっている。さらに近隣の市町村の発達相談、機能訓練事業などの支援事業や、特別支援学校への教育相談などの出向も積極的に行って地域に貢献している。

②教育
卒前教育：
病院開設時から養成校からの依頼を受け、学生の臨床実習を毎年実施している。令和２度はコロナ禍の影響で例年よりは減少したが７校 11 名の長期実習生を受け入れた。当院では平成 29 年度からクリニカルクラークシップ（clinical clerkship：以下 CCS）を導入した。CCS とは、従来の見学型臨床実習とは異なり、学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付ける臨床参加型実習のことであり、実習に協力している患者の権利や安全を守り、学生が臨床指導者の知識や技術の使い方（スキル）を学ぶことができる。
　また今年度も養成校への講師派遣も行い、セラピストの育成にも貢献している。

卒後教育：
誠愛リハビリテーション病院研修会は平成２年より内外の講師を招き、多岐にわたる多くの研修会を企画・開催している。令和元年度は、一般研修会を９回、ボバース関連の研修会として基礎講習会１回、上級講習会１回、イントロダクトリーモジュール講習会やインフォメーションコースを８回行ったがコロナ禍のために令和２年度はすべて中止した。　さらに他組織、地域での研修会や職員教育にも講師派遣を行っているがこれも中止とした。

職員教育：
新人に対しては、入職時より基本的な知識、技術の獲得のために新人教育を密に行っている。4～5 月は毎日、講義や実技を中心に指導し、6 月は個々の症例の臨床指導を行い、治療場面でのスキルの向上を目的とした指導を行なっている。さらに全職員に対しては経験年別の症例検討会、診療別や専門領域での勉強会や実技練習、外部講師による勉強会などを開催している。実際の治療場面での臨床指導（スーパービジョン）では、ボバース国際インストラクター及び部長、次長が全職員を対象に行い、職員一人一人の治療技術の向上を図っている。

③研究

当院ではそれぞれの専門領域や興味がある分野での研究活動を積極的に行い、各専門領域での学会などで研究成果を発表している。三次元動作解析装置(VICON社)やHAL®腰タイプ 自立支援用（サイバーダイン社）などの機器を使った研究や臨床場面での症例から学んだことを取りまとめた症例研究などを行なっている。今年度は専門領域や診療ごとの研究は5学会に7演題の発表を行った。また、投稿文獻も3件。

さらに年1回、職員の学術研究活動を活発にするためにリハ部内での研究発表会を開催している。今年度は12月8～9日まで開催し、大平梨栄による基調講演「コミュニケーションを考える」や「コミュニケーションを成功させるコツ」のテーマでのシンポジウムをオンラインで開催し、さらに4題の演題発表を行った。

＜業績＞

(1)地域派遣業務

活動名	派遣場所	派遣職員	活動日程
機能訓練事業 （くれよんクラブ）	春日市 （パレット館）	理学療法士1名	年33回
		作業療法士1名	年58回
乳幼児発達相談	大野城市 （筑紫保健所）	言語聴覚士1名	年3回
教育相談	南福岡特別支援学校	理学療法士又は 作業療法士又は 言語聴覚療法士1名	年3回

（2）臨床実習受け入れ養成校

養成校名	PT	OT	ST
北九州リハビリテーション専門学校	1	1	
九州中央リハビリテーション学院	1		
九州栄養福祉大学		2	
麻生リハビリテーション大学校		1	
国際医療福祉大学	1	1	
帝京大学		2	
福岡国際医療福祉学院			1

各課合計	3	7	1
全体合計	11		

（３）研究会他

依頼年月日	講習会名	依頼元	内容（月日･場所・その他）
2020/3/5	講師依頼について（御依頼）	医療福祉専門学校 緑生館	2020/4/13～2020/8/3（前期１回） 2020/9/28～2021/1/25（後期１回）
2020/11/9	講師依頼について（御依頼）	大野城市東地区 地域包括支援センター	2021/1/28　乙金公民館
2020/12/29	講師依頼について（御依頼）	日本脳神経理学療法学会	2021/2/28　Web 開催

（４）職員研修一覧

研修名	期間	頻度	時間数	内容
新人教育研修	4 月	週 5 回	40 分	脳卒中患者に対する評価と治療介入の講義・実技
	6～3 月	週 1 回	40 分	個々の症例のスーパービジョン
	5～1 月	月 2 回	90 分	OJT 研修（講義・実技・症例検討）
職員教育（2～3 年目）	7～12 月	2 か月に 1 回	90 分	OJT 研修（講義・実技・症例検討）
経験年別勉強会	7～12 月	毎週木曜日	50 分	経験年別グループでの症例検討や実技練習
外部研修等の伝達	7～12 月	毎週水曜日	30 分	研究発表、学会報告、実技伝達等
院内研究発表会	12 月	年 1 回	1 日間	基調講演・シンポジウム

（５）学会発表

種別	演者名	演題	学会
国内学会	大田瑞穂，山田辰樹，鍵山智子，横山葉子，長尾哲彦，井林雪郎	抗力を備えた継手付き体幹装具の麻痺側トウクリアランスを構成する因子に対する効果	第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会，2020，8

国内学会	山田辰樹，大田瑞穂，坂本陛京，青木淳，菊池尊徳，岸本久哲，鍵山智子，横山葉子，長尾哲彦，井林雪郎	油圧制動付短下肢装具 Gait Solution による回復期脳卒中片麻痺患者の歩容変化	第 57 回日本リハビリテーション医学会学術集会，2020，8
国内学会	田代裕太，堀航貴，久保拓哉，渕雅子	高次機能障害により病識低下を伴った患者の職業準備訓練について ～自己分析シートを用いて行動変容に繋がった一症例～	第 54 回日本作業療法学会,2020,9
国内学会	菊池尊徳，大田瑞穂	Stiff Knee Gait を呈する脳卒中片麻痺者へのロボット膝継手付き長下肢装具を用いた歩行練習の効果	第 18 回日本神経理学療法学会学術大会，2020，11
国内学会	山田辰樹，大田瑞穂	回復期脳卒中片麻痺患者に対する最大速度歩行が麻痺側遊脚期の運動戦略に及ぼす影響―前遊脚期における下肢の運動制御の変化に着目して―	第 18 回日本神経理学療法学会学術大会，2020，11
国内学会	石橋翔，大田瑞穂，青木淳，藤田崇秀，山田辰樹	装具作成時期の違いが退院時移動能力及び階段昇降能力に及ぼす影響について	第 30 回福岡県理学療法士学会，2021，2
国内学会	大田瑞穂，坂口重樹，田邉紗織，鍵山智子，横山葉子，長尾哲彦，井林雪郎	高齢の脳卒中片麻痺者に対する HAL 腰タイプを使用した運動療法の効果	第 31 回日本老年医学会九州地方会，2021，2

（６）投稿文献・書籍執筆

種別	著者	論文題名	誌名
和文総説・その他	坂井伸朗，林克樹，古場友貴，渕雅子，小森望充，村上輝夫	脳卒中リハビリテーション支援のためのメカトロシステムの開発	設計工学 Vol55（10）：591 - 600，2020
和文原著	大田瑞穂，玉利誠	歩行が自立レベルに至らない脳卒中片麻痺者の動的安定性に関する特徴	理学療法科学 36（1）：73-77，　2021
和文原著	大田瑞穂，青木淳，藤井千尋，山田辰樹，玉利誠	回復期脳卒中片麻痺者の前脛骨筋への機能的電気刺激を用いた歩行練習が歩行運動パターンに及ぼす影響	理学療法科学 36（1）：119-123，2021

通所リハビリテーション誠愛

文責：通所リハビリテーション誠愛　課長　森下　祐介

＜基本方針＞

・介護保険におけるリハビリテーションとして、医療保険（入院、外来）でのリハビリテーションや他の介護保険サービスと連携の取れたリハビリテーションを実施する。
・生活期のリハビリテーションとしての単なる機能維持に留まらず、更なる機能向上・改善を目指し質の高いリハビリテーションを積極的に展開する。
・利用者自身の身体への意識づけや生活習慣の見直し、社会交流の促進など、より主体的で健康的な生活が送れるように支援する。

＜活動内容＞

当事業所は誠愛リハビリテーション病院の併設施設として、平成 18 年 11 月に 3～4 時間の通所リハとして開設、平成 19 年 6 月より新棟の現在の場所にて運営している。また、平成 25 年 1 月から本館 4 階にて 1～2 時間の短時間通所リハを開設している。
「介護保険における外来リハビリテーション」との位置づけで 3～4 時間は午前 50 名、午後 50 名の定員、1～2 時間は午前 20 名を 2 枠、午後 20 名を 2 枠の定員でいずれも食事・入浴サービスなしのリハビリテーションに特化したサービス提供を実施している。

＜スタッフ数（平成 31 年 4 月現在）＞

理学療法士 7 名、作業療法士 4 名、相談員 1 名、助手 6 名、事務 2 名　計 20 名

＜特色＞

○セラピスト（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）によるマンツーマンでの個別リハビリテーションの重視し、要支援者への個別リハビリも実施している。
1～2 時間の短時間通所はさらに個別リハビリを重視した内容の運営を行っている。

○セラピスト司会によるグループ訓練を毎回実施し、利用者自らが自身の身体の状態や能力に気づき、より良い身体機能、生活及び生活習慣の再構築に繋がるような内容の指導を行っている。

○フィットネスマシンの活用やセラピスト指導による自主訓練を充実し、利用者自身の健康づくりへの意識づけを積極的に行うように援助している。また、利用者同士が互いの取り組む姿勢に接する事が配慮、援助、相談などの社会的交流の促進に繋がっている。

福　祉　部

文責：福祉部部長　中村真紀

＜理念＞

疾病や障害等によって生じる患者・家族が抱える諸問題について、院内スタッフや行政等との連携を図り、地域で再び生活できるようにサポートしていきます。

＜基本方針＞

・自らの先入観や偏見を排し、患者を受容し、患者の自己決定を尊重する。
・患者との専門的援助関係を最も大切にし、必要な情報を適切な方法、分かりやすい表現を用いて提供し、患者の利益を優先する。
・実践現場において最良の業務を遂行するため、互いの専門性を尊重し、他の専門職等と連携・協働する。
・最良の実践を行うために教育、研修に参加し、援助方法の改善と専門性の向上に努める。
・専門職としての自覚を高め、地域社会との交流を行い、地域福祉の増進に積極的に取組む。

＜活動内容＞

2020 年度は新型コロナウイルスの猛威により、私たちの日常生活や働き方、経済活動全てにおいて多大なる影響を受け、新しい生活様式に慣れていきつつ、その中で気持ちを切り替える機会が多くあった。さらに当院においては、これまでとは違う発想で入退院支援・病床管理を見直すという重い課題が突き付けられた年度でした。

当院の前年度実績と比較すると入院紹介患者数は 8.3%減少、入院患者数は 6.4%減少であり、特に影響を受けた 5 月（第 1 波）は、紹介患者数 35.7%減少、入院患者数 20.3%減少、病床稼働率は 8.0%減少、重症患者率は 43.4%を占めていた状況であった。重症患者の入院紹介はあるもののそれ相応の病床の空きがなく、一方、軽症・中等症患者の入院紹介が少なかったため病床数に満たなかったことから病床稼働率の低迷が続いた。感染対策を講じながら入院支援や COVID-19 感染後の患者の受入れ、早期に重症患者の受入れ等につき各病棟の看護課長と病床利用を算段しながら稼働率を高めるよう努めた。さらに、感染対策による面会禁止が継続しており、退院支援がこれまでのようにはいかず、写真や動画、オンラインを有効に活用し患者さんやご家族のご期待に添えるよう、また不安となり得ることを察知しながら、リハチームで今できる最大限のことを考慮した退院支援をさせていただいた。今後も不易の部分を疎かにしないよう意識していく所存である。

１．成人入院

前方連携支援担当：天本智大、高橋麻理、片井ちあき

後方連携支援担当：天本智大、井上薫、澤田洋子、石橋朋美、瀬在丸泰葉、
金沢由貴、塚口良幸

■活動内容：入退院を中心とした支援

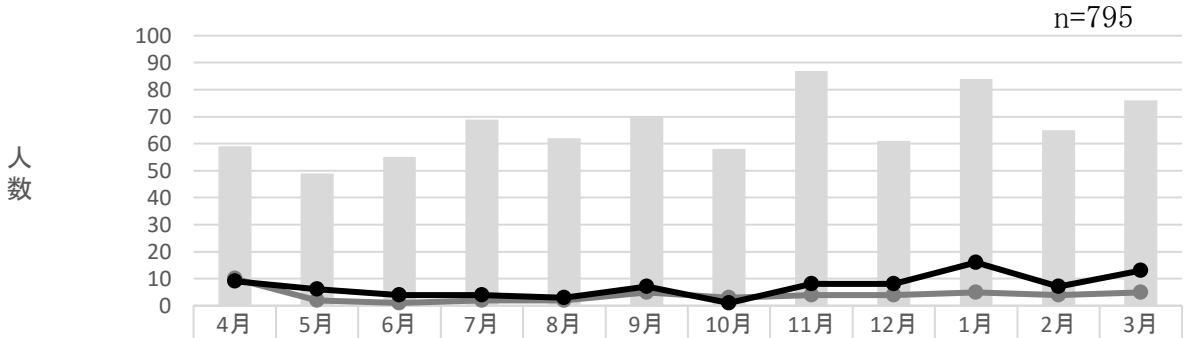
・入院前の電話による情報収集

・入院中の経済的問題に対する相談対応、介護保険サービスの案内や申請方法の説明、身体障害者手帳や障害年金等の諸手続きの案内等

・退院支援、退院後家庭訪問

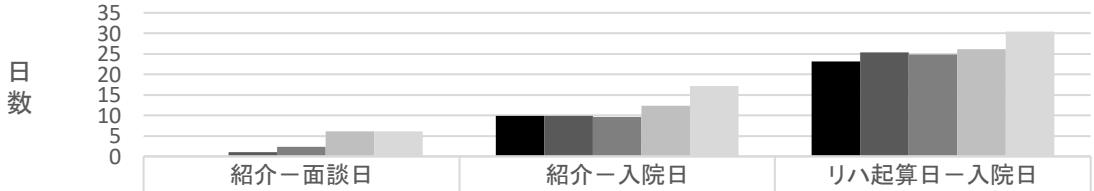
・在宅復帰に際し、必要な社会資源や家屋環境等の調整や必要に応じて各医療機関や事業所等と相談や連携を図りながら在宅調整

（１）紹介患者件数



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
入院紹介	59	49	55	69	62	70	58	87	61	84	65	76
お断り	10	2	1	2	2	5	3	4	4	5	4	5
キャンセル	9	6	4	4	3	7	1	8	8	16	7	13

（２）入院日までの日数



	紹介ー面談日	紹介ー入院日	リハ起算日ー入院日
2020年度	0	9.9	23.2
2019年度	1	9.9	25.4
2018年度	2.3	9.6	24.9
2017年度	6.1	12.3	26.2
2016年度	6.1	17.1	30.5

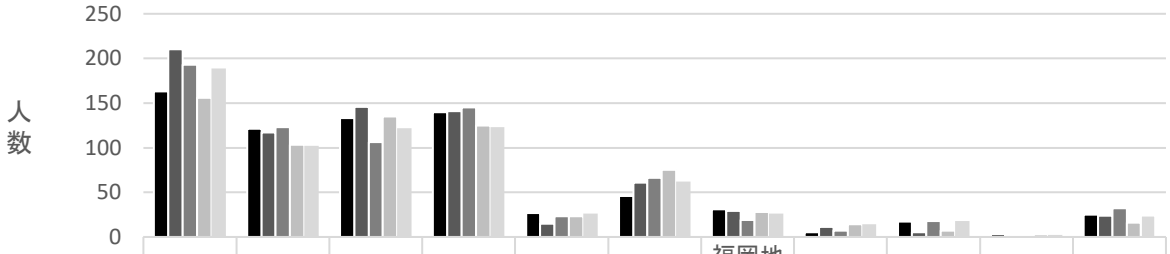
（３）入院患者数

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
人数	44	51	51	61	64	61	66	68	66	52	67	60	711

（４）疾患別入院患者数

脳梗塞	脳出血	くも膜下出血	大腿骨骨折	その他	合計
185	114	48	153	211	711
26.0%	16.0%	6.8%	21.5%	29.7%	100%

（５）入院地域別患者数



	大野城市	春日市	太宰府市	筑紫野市	那珂川市	福岡市	福岡地区その他	筑豊地区	筑後地区	北九州地区	県外
2020年度	163	121	133	140	27	46	31	5	17	3	25
2019年度	210	117	146	141	15	61	29	11	5	1	24
2018年度	193	123	106	145	23	66	19	7	18	1	32
2017年度	156	103	135	125	23	75	28	14	7	3	16
2016年度	189	102	122	123	26	62	26	14	18	2	24

（６）退院患者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	63	42	51	59	63	72	57	55	84	51	61	56	714

（７）転帰別退院患者数とその割合（回復期リハ病棟対象外患者も含む）

	軽快	転院(療)	転院(急)	死亡	カトレア	施設	総数
人数	568	24	71	3	22	26	714
割合	79.6%	3.4%	9.9%	0.4%	3.1%	3.6%	100%

２．成人外来

担当：竹下太、根本智寿子

■活動内容：相談業務を中心とした支援

・経済的問題への対応（診療費の支払いなど）
・各種公的制度の案内・手続き支援
・在宅医療・在宅介護の問題への対応
・各種苦情の対応
・外部の医療施設・介護事業所との連携

３．小児外来

担当：竹下太、根本智寿子

■活動内容

・新患診察での患児をとりまく生活環境の情報収集

・福祉制度の相談、説明、必要に応じて行政との連絡調整

・特別支援学校への見学会サポートや外来リハビリテーション終了後の福祉事業所との連携

【１】薬剤課

文責：薬剤課　課長　守　秀夫

＜基本方針＞

- 薬剤に関する情報提供を積極的に行います。
- チーム医療の一員として、個々の患者さんに適した薬物治療を考えます。
- 医薬品の適正使用を推進します。

＜活動内容＞

- 病棟業務として、調剤・鑑査・薬剤の管理（救急カートなど）・服薬指導・全入院患者を対象とした持参薬の鑑別
- 外来業務として、調剤・鑑査・投薬・薬剤の管理（救急カートなど）
- カトレア業務として、調剤・鑑査・退所指導の作成
- 院内外からの薬剤に関する問い合わせへの対応
- 薬剤に関する勉強会への積極的な参加および部署内での知識の共有

＜業績＞

- 外来処方箋枚数・・・・・平均　　473 枚／月
- 入院処方箋枚数・・・・・平均　2052 枚／月
- カトレア処方箋枚数・・・平均　　294 枚／月

【２】検査課

文責：検査課　課長　村瀬　朗

＜基本方針＞

初めて検査される方や何度か検査をされている方でも、安心して検査を受けられリハビリテーションに専念できるような環境作りに心がけ、患者さんに優しい検査室を目指します。また常に迅速なデータが提供できるよう努めます。

＜活動内容＞

患者さんの検査について検体処理から検査実施や報告、生理検査の予約から検査実施（検査医によるものもあり）やデータ管理までを行っている。また、院内感染対策委員会や NST 委員会などに情報として必要なデータをわかりやすくまとめて提出を行なった。
今年度は新型コロナウイルス感染症が各地で猛威を振るう中、感染防止や検査の対応を行った。

＜業務内容＞

１、院内検体検査（血球検査、尿一般検査、便潜血、血液ガス、輸血関係、皮膚等鏡検等）
２、外注検査（生化学、細菌検査、細胞診、骨塩定量、ホルター心電図など）
３、生理検査（心電図、エコー、脳波、ＡＢＩなど）
　※ エコーについては、頚部・下肢血管、腹部を検査医が施行し、心臓は検査技師にて迅速に結果を報告
　※ 脳波は今年度１２月いっぱいで検査を終了

＜業績＞

１．検体検査
生化学 3,690 件、血球検査 2,940 件、尿検査 1,940 件、便検査 200 件
細菌検査 270 件、
２．生理検査
心電図検査 800 件、エコー検査(心臓 120 件、頚部 20 件、下肢静脈 40 件、腹部 40 件)、ホルター心電図 60 件、脳波検査 20 件
※　検査の数値は大凡の値

【３】放射線課

文責：放射線課　課長　坂口　龍子

＜基本方針＞

・最低限の放射線量で最適な医療画像を提供するよう努力する。
・個々の患者さんにとって最も有効で苦痛の少ない検査方法を検討し、検査を行う。
・医療事故防止に細心の注意を払う。

＜活動内容＞

・　撮影業務（X 線一般撮影、X 線 CT 検査、VF 検査）
・　健診業務
・　画像管理業務（PACS への画像ﾃﾞｰﾀ読込み・書き出し・ディスク作製等）
・　委員会（Web）活動参加など

＜業績＞

・年間件数（概算）

一般撮影	4,100 件
ポータブル撮影	2 件
VF 検査	45 件
CT 検査	920 件

【５】栄養課

文責：栄養課　八尋　玲

＜基本方針＞

・入院患者さんの病状に応じて安全で適切な食事を提供し、病状回復の促進を図ります
・多職種と協力、連携を図り、チーム医療の一員として、栄養士の専門性を発揮します
・自己研鑽に努め、栄養と食事の専門職としての知識、精神のレベル向上を図ります

＜活動内容＞

・新しい献立の試食会を実施。
・栄養補助食品の適正な使用を行うために毎月、補助食品の付加対象者について見直しを実施。
・年２回の嗜好調査の実施と分析を行い、献立を改善（朝食メニューの見直し）。
・ノロウイルス発生時の対応について見直しを実施。
・３、５病棟のみ病棟専任。

＜業績＞

◆栄養指導件数

年間指導件数・・・（入院）239 件　（外来）0 件

＜勉強会＞

・本年度よりリモートによる勉強会
・感染対策 Web セミナー（5 月）
・褥瘡対策 Web ゼミナー（7 月）
・サルコペニアと低栄養について（7 月）
・口腔ケア Web セミナー（9 月　3 件、11 月　1 件）
・リハ栄養フォーラム（10 月）
・リハ栄養について（10 月　2 件）

管　理　部

文責：管理部長　今村　洋一

<活動内容>

2020 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、入院制限や各施設の一時閉鎖を行なわざるをえなかった。病棟入院料のアップグレード、体制強化加算の算定などの施策により単価改善を図ったが、最終的には収入減となった。
また、経費削減に努めたが、感染対策費の増加などにより、減収減益となった。
今後とも、新型コロナウイルス感染症拡大防止を図りつつ、よりよい医療を提供するために、「すべては患者さんのために」との意識を管理部全員で共有し、一人ひとりのレベルアップを目指して日々の業務に当たりたい。

【１】　経理課・総務課・人事課

文責：人事課　課長　高見　愛

＜基本方針＞

・法令遵守を基本とした正確迅速な業務遂行
・患者さんをサポートする迅速丁寧な行動力

＜活動内容＞

経理課：　現金、預金出納業務、会計業務
総務課：　①庶務係　書類管理業務、消耗品・備品管理業務、設備・車両管理
②送迎係　通所リハ利用者・外来患者送迎業務
③清掃係　院内清掃業務
④託児所　職員の乳幼児保育業務
人事課：　職員の労務管理業務、社会保険手続業務、給与計算業務

【２】医事課

文責：医事課　課長　古賀　昭臣

＜基本方針＞

・ 患者さんに満足いただける接遇、環境管理
・ 知識、技術向上に努め、クオリティーの高い請求業務
・ 患者さんの人権を尊重した個人情報の保護管理

＜業績＞

1）患者数と請求業務について

患者延人数は、外来患者は延 20,996 名で前年度と比べ 845 名減少した。
外来患者数減少の原因として、新型コロナウイルスの影響により令和 2 年 4 月～5 月にかけて外来患者のリハビリテーションの一時中止や感染予防のために毎月受診していた患者が２か月～３か月に１回の受診になったことが考えられる。
入院患者は延 60,138 名で前年度と比べ 6,205 名減少した。
新型コロナウイルスの影響が減少に繋がったと考えられる。
入院の病床稼働率は 79％で前年度よりも 8％下降した。
また月１回開催される誤差返戻会議で減点理由を検討し、今年度の請求に対しての減額率は約 0.06%であった。前年度より 0.02％増加している。
また、３病棟を令和 2 年 8 月より体制強化加算を算定できるよう届出、５病棟を令和 3 年 1 月より回復期リハビリテーション病棟入院料３から回復期リハビリテーション病棟入院料１に変更の届出を行った。

2）入院中の患者さんの他医受診について

前年度に引き続き請求点数と入院料の減算点数を比較し、入院料の減算を行うか当院へ全額自費請求を行うかを検討し返答している。また、当院に採用薬のある処方があった場合、主治医へ確認し当院で処方してもらうようにしている。

患者動向

平均在院患者数

新入院患者数

患者延べ人数

入院患者稼働率

病棟別入院・転入患者数

病棟別退院・転出患者数

入院患者　ＩＣＤ-10 分類別

退院患者　ＩＣＤ-10 分類別

ＩＣＤ-10 別退院患者平均年齢

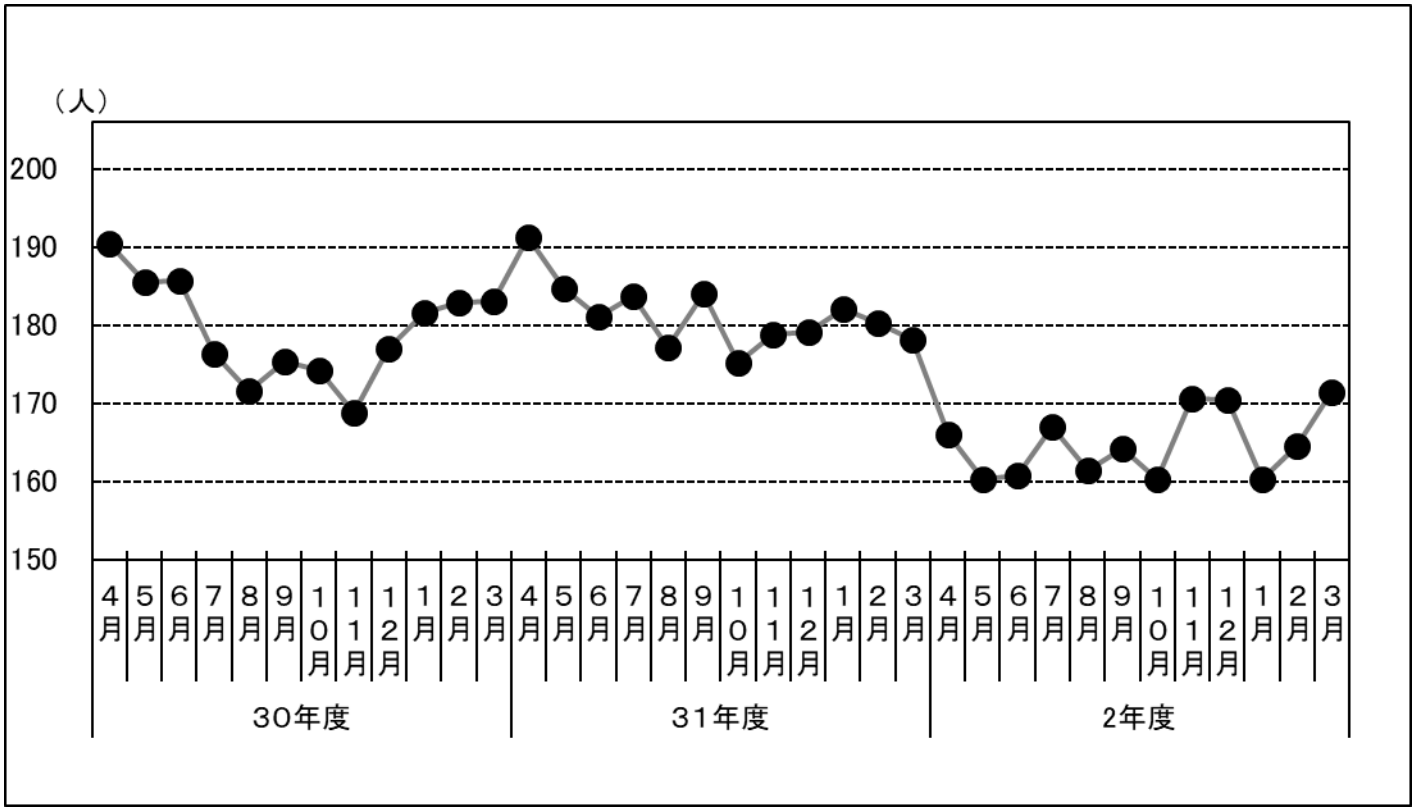
ＩＣＤ-10 別平均在院日数

外来平均患者数

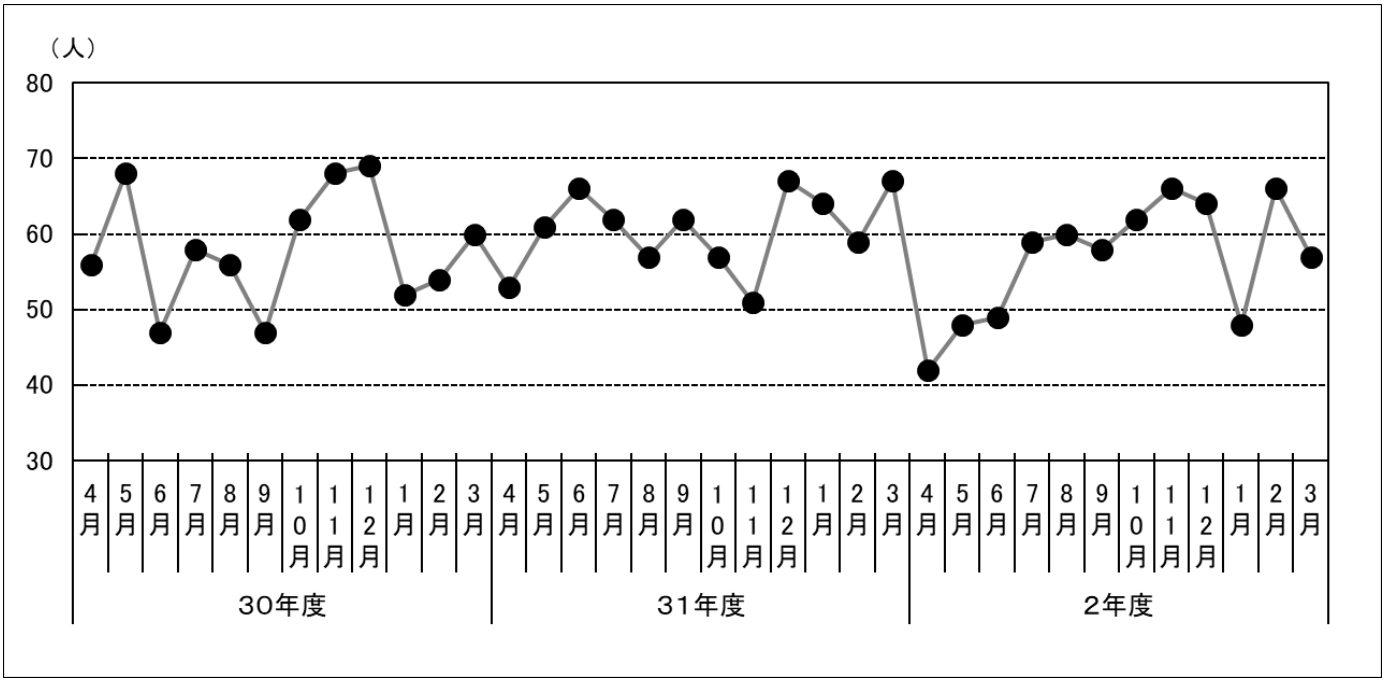
外来初診患者数

外来患者延べ人数

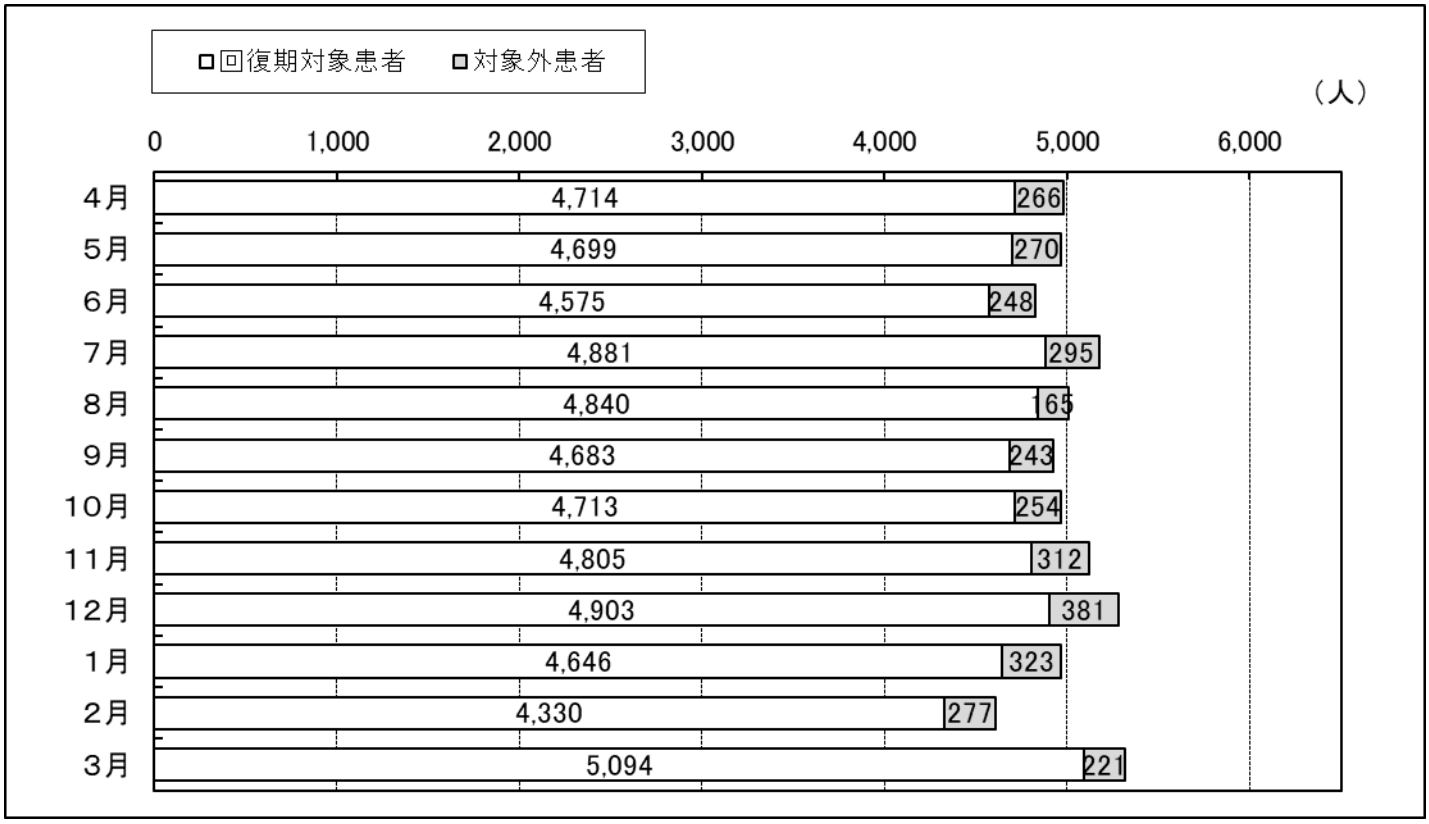
平均在院患者数



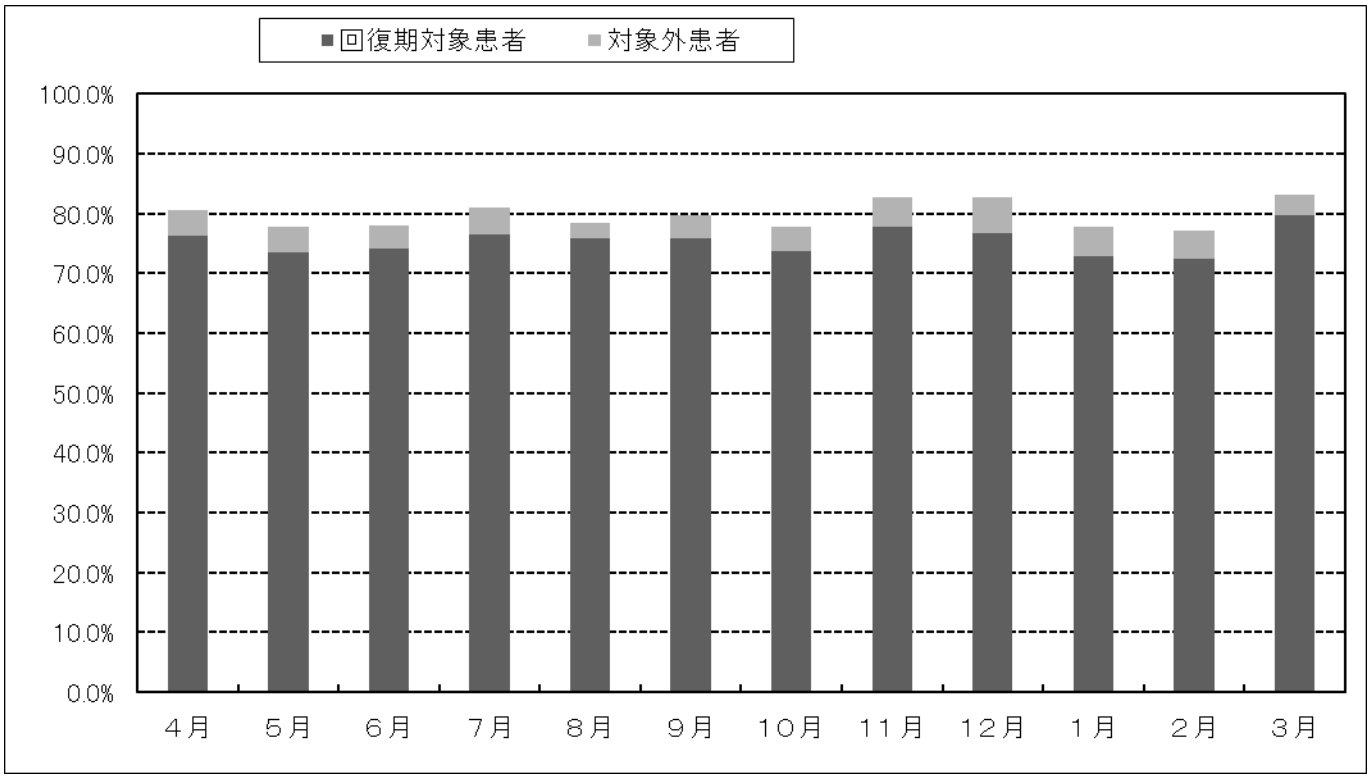
新入院患者数



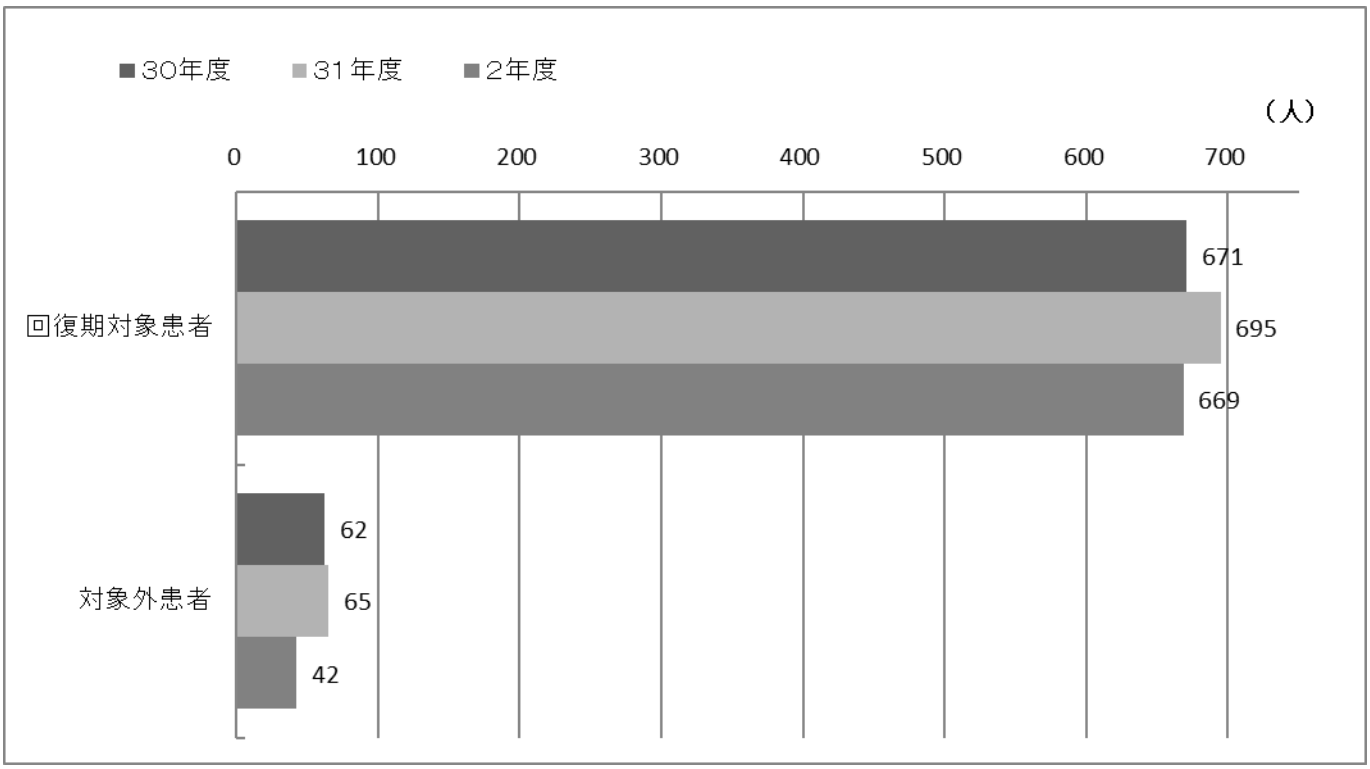
患者延べ人数



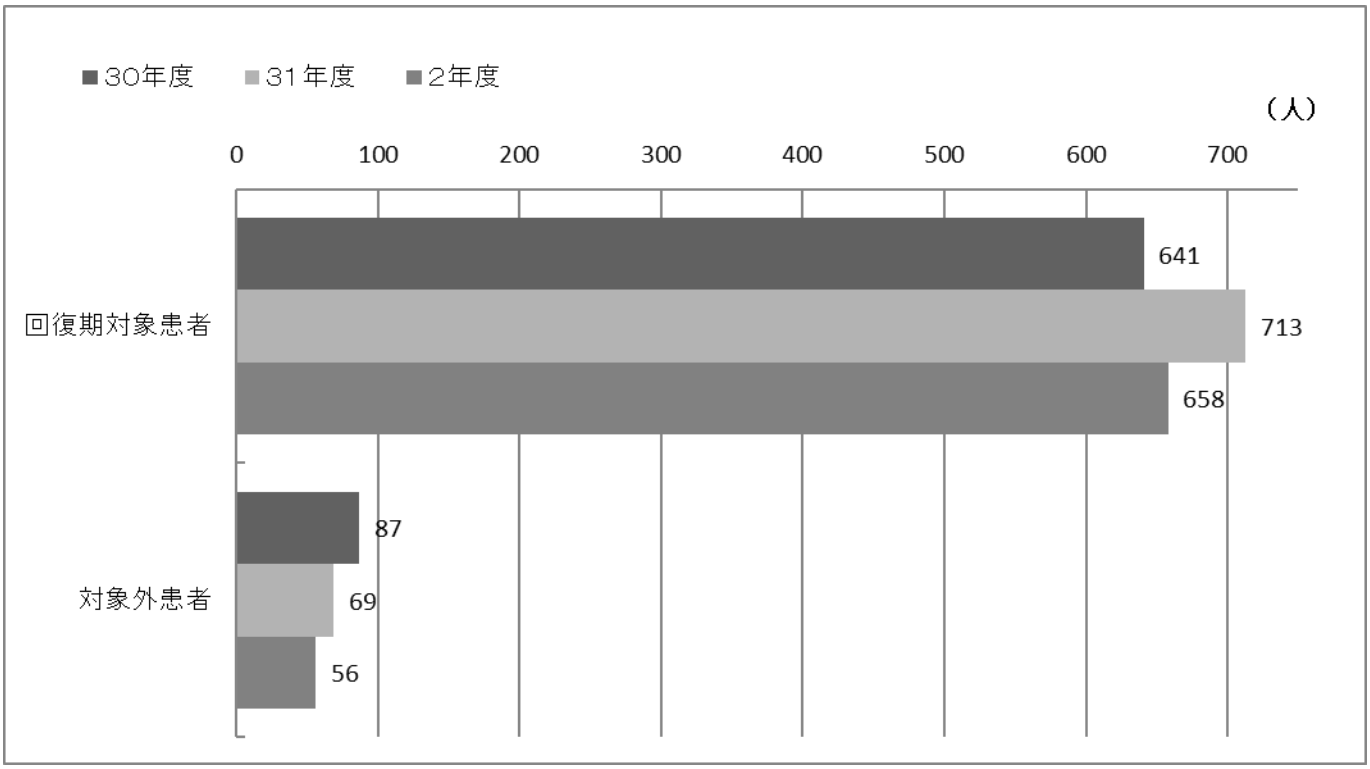
入院患者稼働率



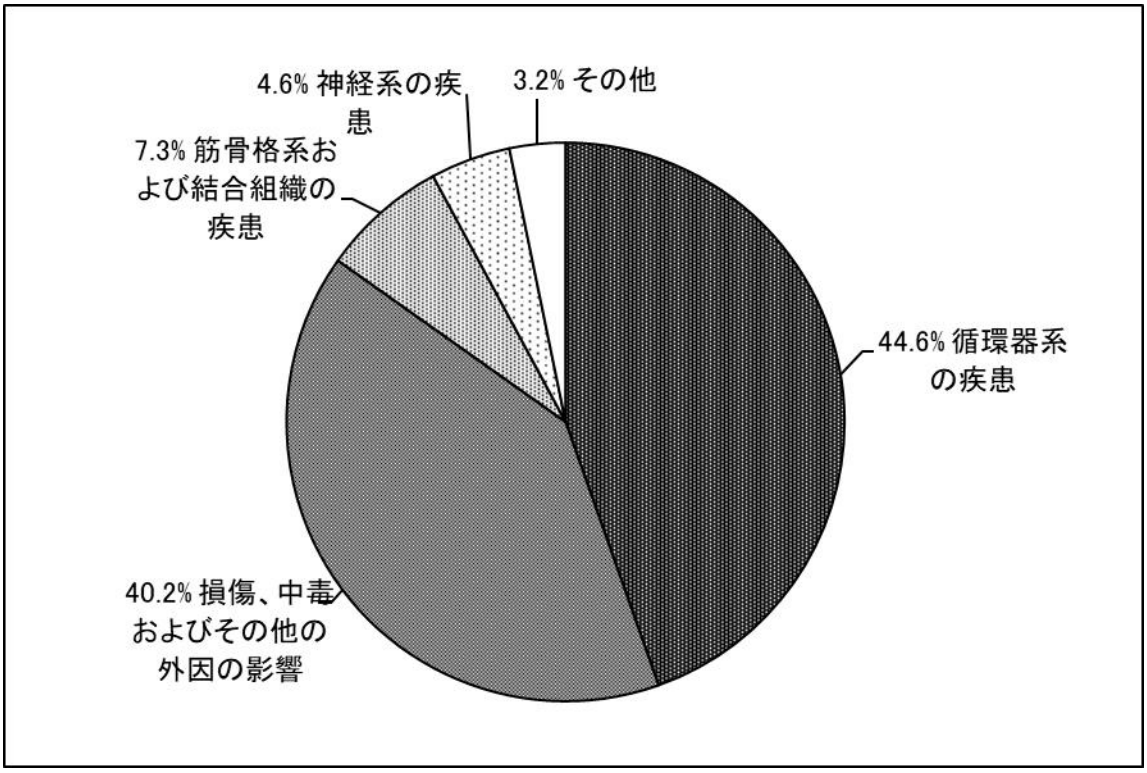
病棟別入院・転入患者数



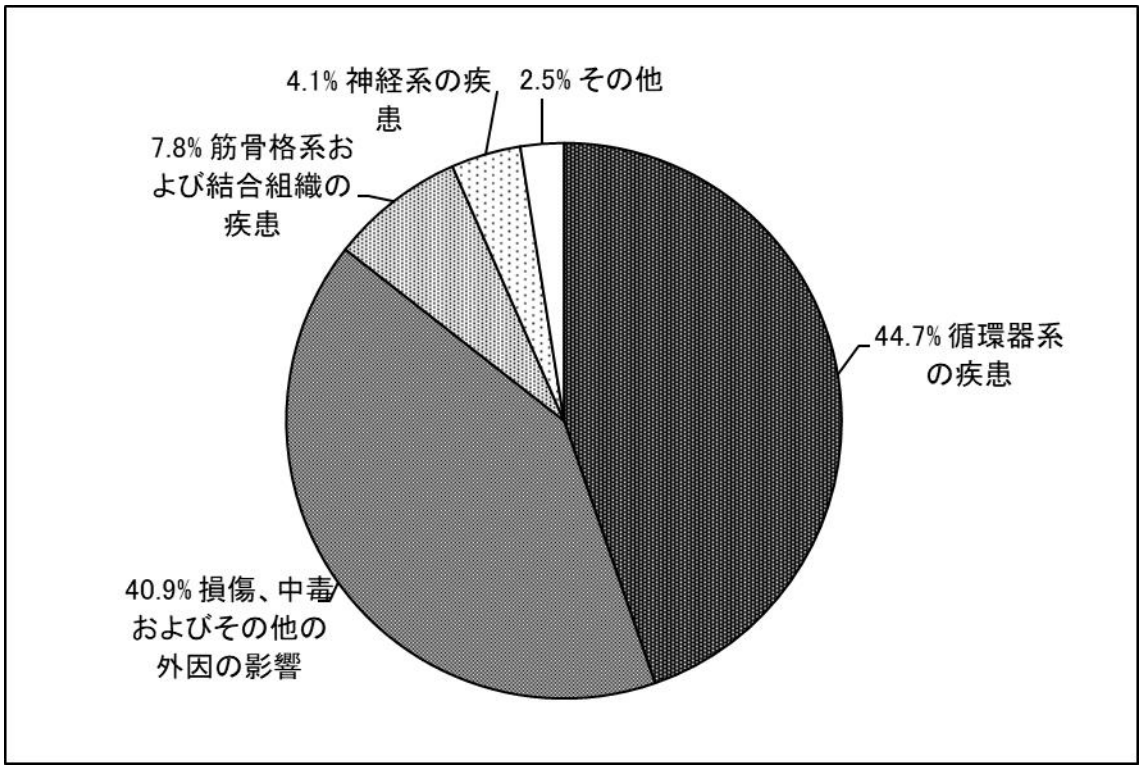
病棟別退院・転出患者数



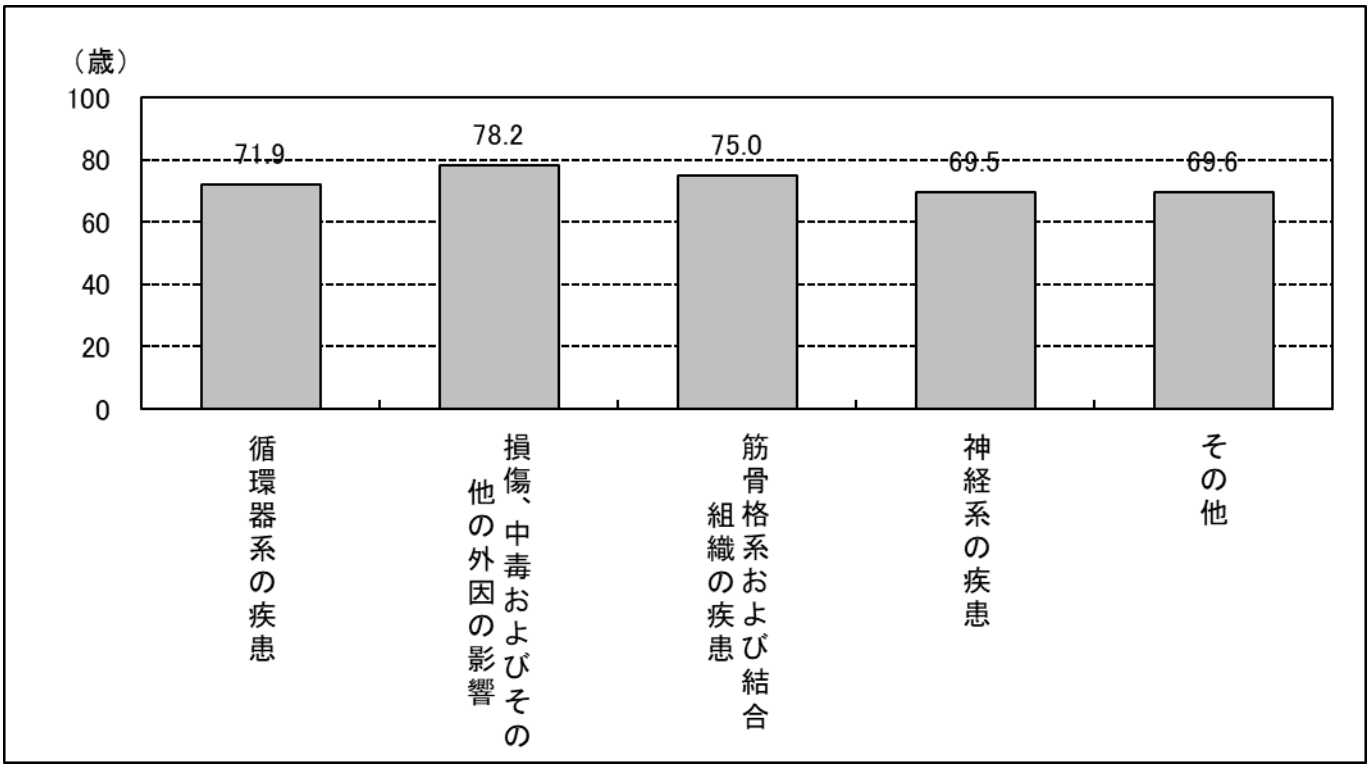
令和２年度入院患者　ICD-10 分類別



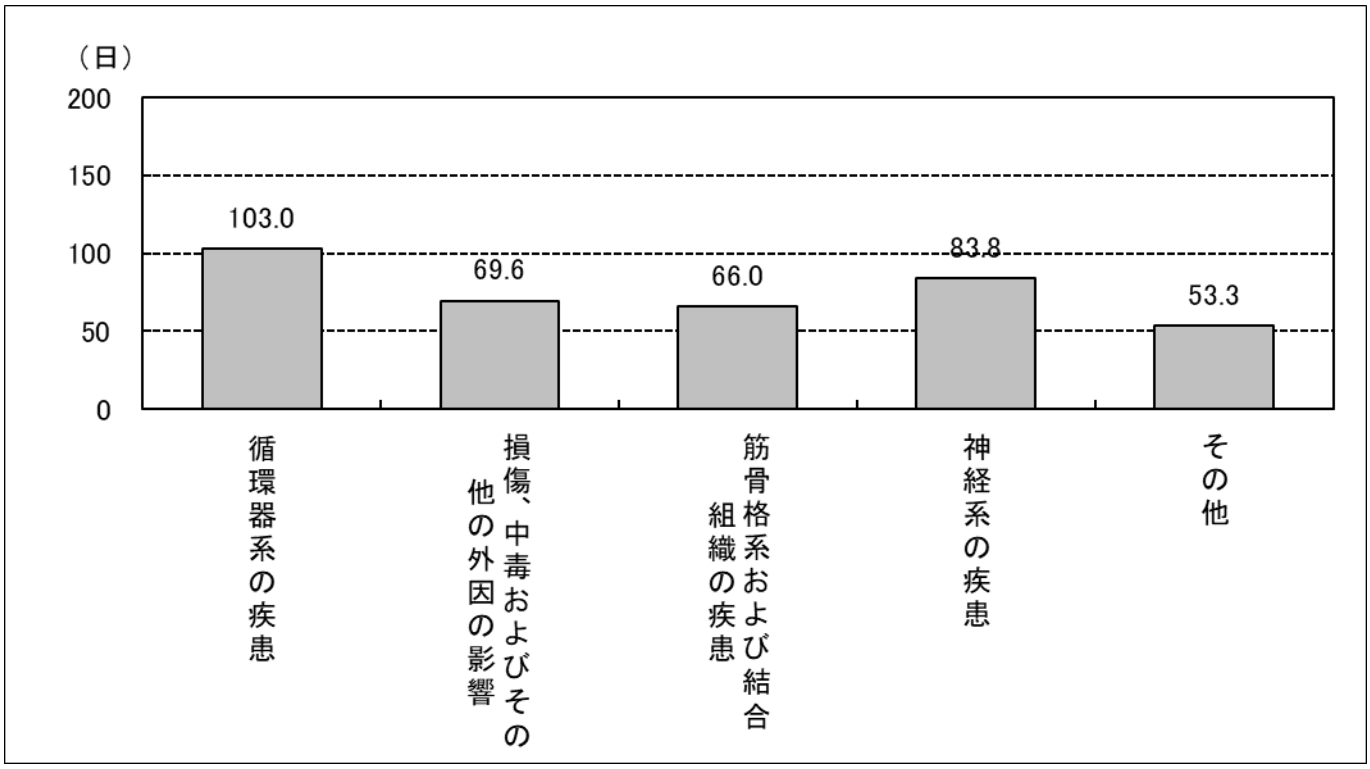
令和２年度退院患者　ICD-10 分類別



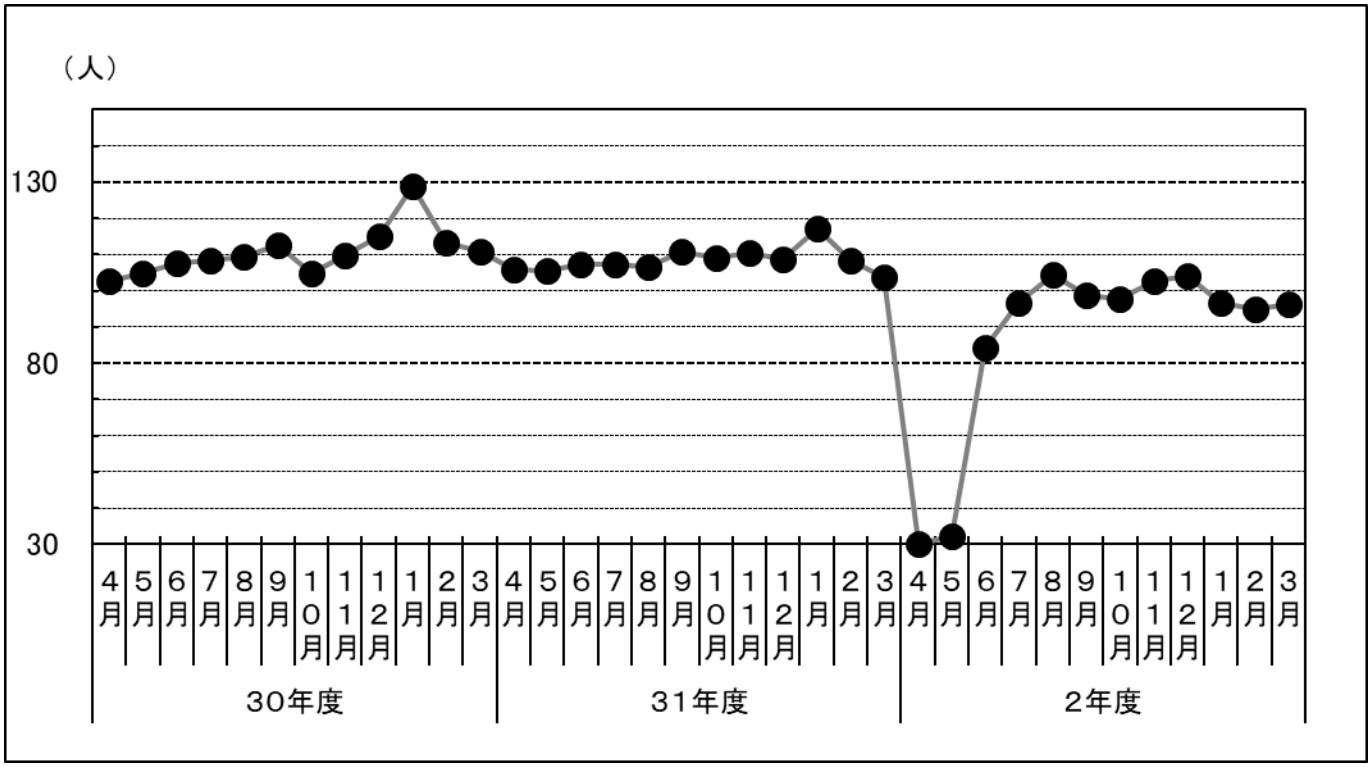
ICD-10 別退院患者平均年齢



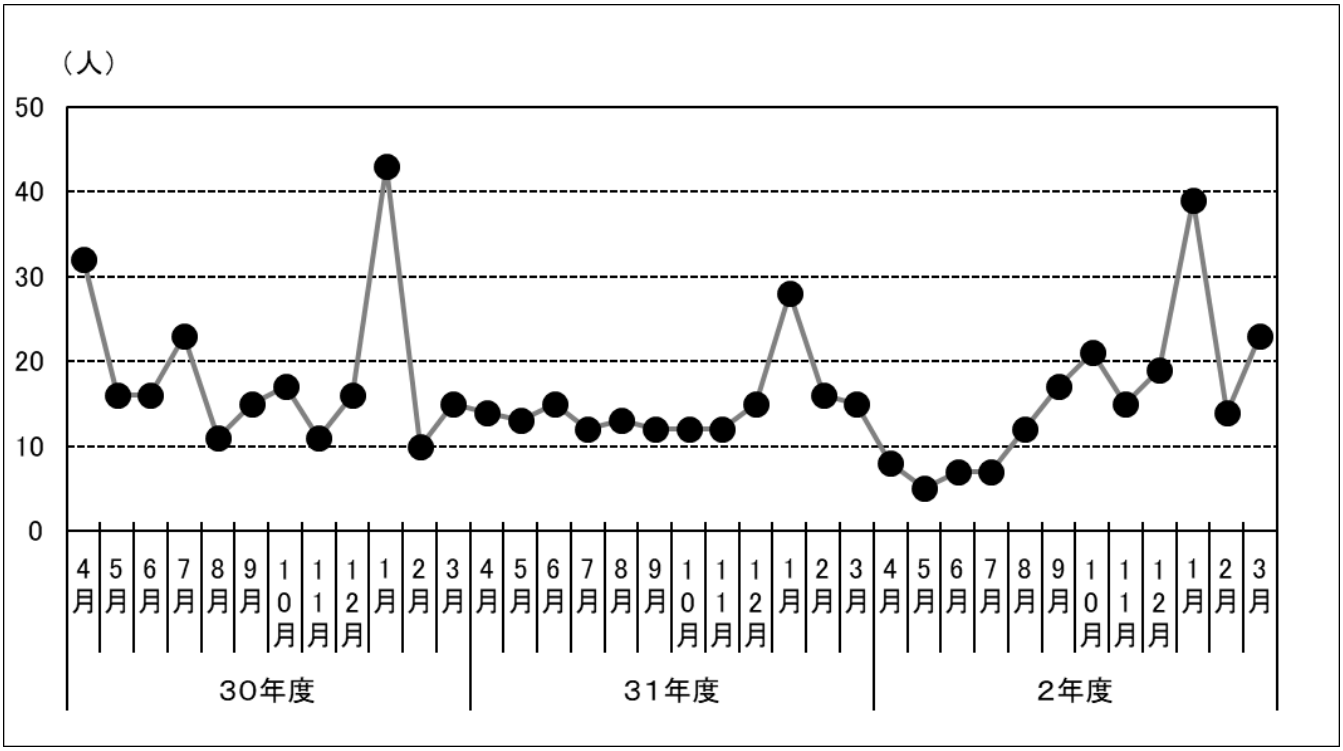
ICD-10 別退院患者平均在院日数



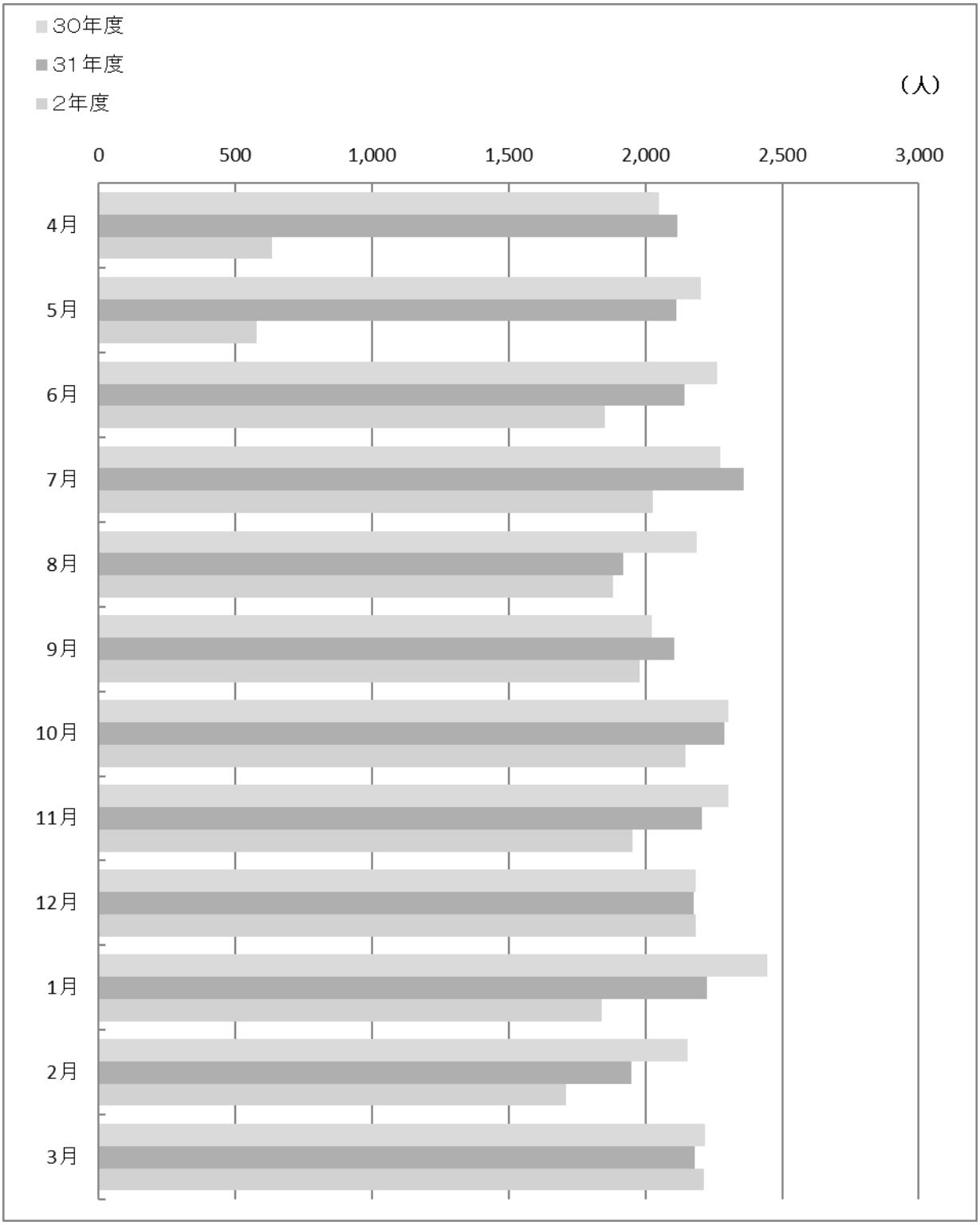
平均外来患者数



外来初診患者数



外来患者延べ人数


30年度
31年度
2年度
（人）
0
500
1,000
1,500
2,000
2,500
3,000
4月
5月
6月
7月
8月
9月
10月
11月
12月
1月
2月
3月

委員会活動

医療安全管理委員会

事故対策委員会

医薬品安全管理委員会

医療機器安全管理委員会

院内感染対策委員会

医療ガス安全委員会

防災委員会

医療ガス安全委員会

労働安全衛生委員会

公用車運行管理委員会

個人情報保護委員会

薬事委員会

給食委員会

摂食嚥下チーム（ＥＳＴ）

カルテ開示委員会

倫理委員会

褥瘡対策委員会

図書管理委員会

広報委員会

サービス向上委員会

輸血療法委員会

誠愛教育委員会

フットケアチーム（ＦＣＴ）

認知症ケアチーム（ＤＣＴ）

排泄ケアチーム（ＣＳＴ）

医療安全管理委員会

文責：管理部長　今村洋一

委員会開催日：毎月第１木曜日(Web 開催)

2020 年　4/2, 5/7, 6/4, 7/2, 8/6, 9/3, 10/8, 11/5,12/3

2021 年　1/7,2/4,3/4

構成メンバー：院長(委員長)、医局１名、看護部２名、リハビリ部２名
福祉部１名、管理部３名、診療部２名　　計 12 名

目的：

院内感染対策委員会・事故対策委員会(医薬品安全管理委員会、医療機器安全管理委員会)・医療ガス安全管理委員会・防災委員会を統括し、医療安全にかかわる体制の確保及び安全性の向上に努めている。

活動内容:

年度の業務改善計画を策定し、その項目毎に改善を実施し、評価を行っている。
また、毎週火曜日、医療安全のカンファレンスを開催し、随時、医療安全の改善・向上に努めている。
職員への啓蒙活動としては、医療安全管理の研修会を年４回開催している。
本年度も、院内感染対策について２回、事故対策についても２回に分けて行った。

結果:

本年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のために様々な感染対策を実施した。

職員向け研修会

院内感染対策委員会

第１回

日 時 ： 2020 年 11 月 5 日　アンケート方式
講 師 ： 医師・院内感染対策委員会委員長　石松　義弘
テーマ:「新型コロナウイルス感染症をのりこえるための説明書(改訂版)」

第２回

日 時 ： 2021 年 3 月 30 日　アンケート方式
講 師 ： 医師・院内感染対策委員会委員長　石松　義弘
テーマ:「新型コロナウイルス感染症のいまに関する 11 の知識」

事故対策委員会

第１回

日 時 ： 2020 年 11 月 5 日　アンケート方式

講 師 ： 診療部薬剤課　管理薬剤師　守　秀夫

テーマ ：「従事者に対する医薬品の安全使用のための研修会」

講 師 ： 診療部放射線課　課長　坂口　龍子

テーマ ：「診療放射線の安全利用についての研修」

第２回

日 時 ： 2021 年 3 月 30 日　アンケート方式

講 師 ： 看護部　副院長　金山　萬紀子

テーマ ：「事故防止対策報告(看護部)」

講 師 ： リハビリテーション部　課長　古江　伸志

テーマ ：「事故防止対策報告(リハビリテーション部)」

講 師 ： 通所リハビリテーション誠愛　課長　森下　祐介

テーマ ：「事故防止対策報告(通所リハビリテーション誠愛)」

※要旨については、それぞれの委員会記録に記載、当院ホームページにも記載している

事故対策委員会

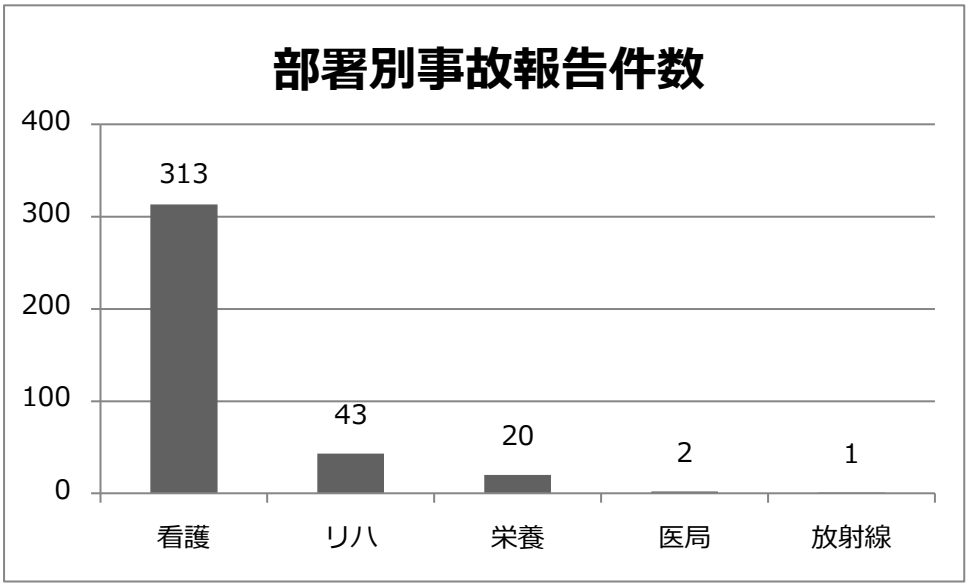
文責：副院長（看護部）　金山萬紀子

委員会開催日：第１・３木曜日　13：00～
　令和２年　6/4，7/2，8/6，9/3，10/1, 11/5,12/3,　　計７回
　令和３年　1/7，2/4，3/4　　計 ３回

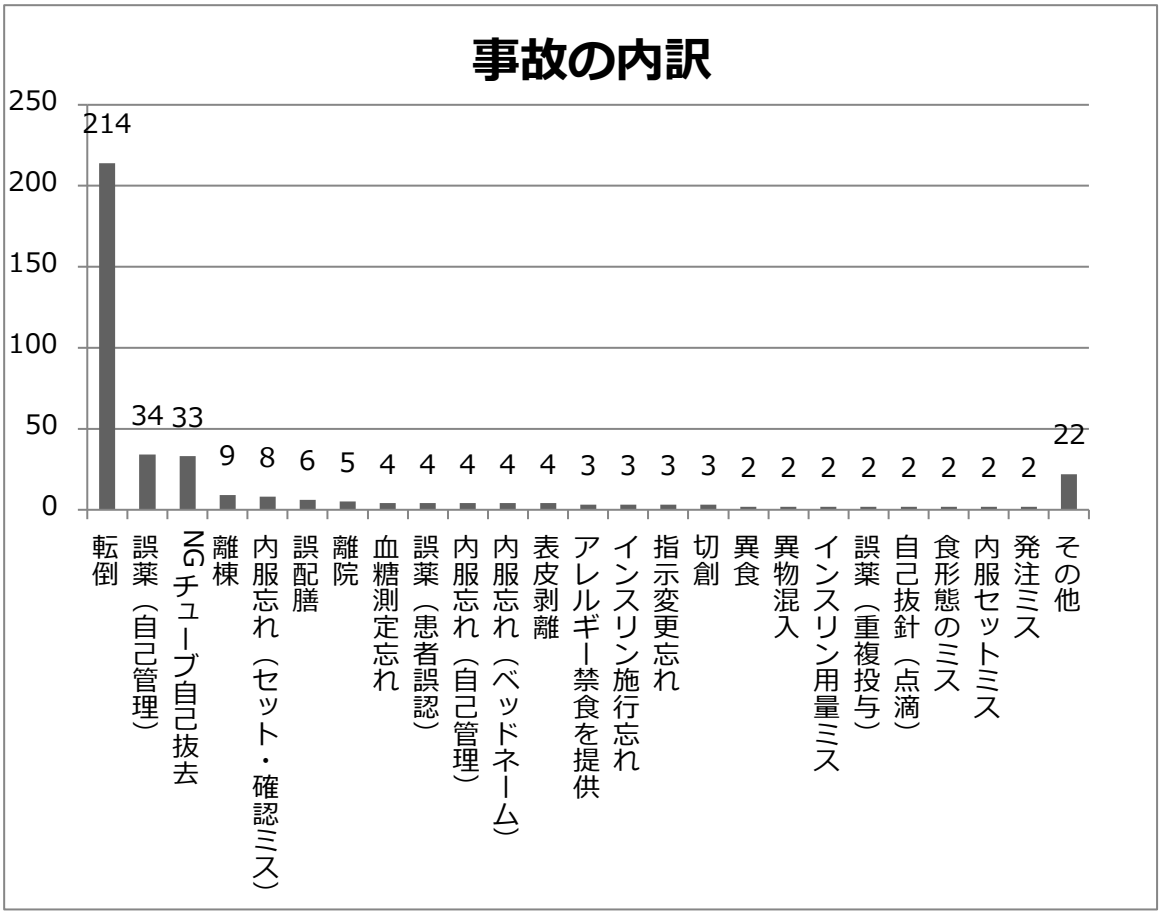
構成メンバー：
　院長（委員長）、医局 １名、看護部 ２名、リハビリテーション部 １名、
　福祉部１名、管理部５名、カトレア１名　計 13 名

活動内容：
　①事故分析
　　ヒヤリハット・事故報告書を集計し、個々の事例に対し改善策等を検討。
　②医療安全研修会
　　本年度は、令和２年 11 月 5 日、令和３年３月 30 日に院内･併設関連施設 11 部署による web 研修会を開催。

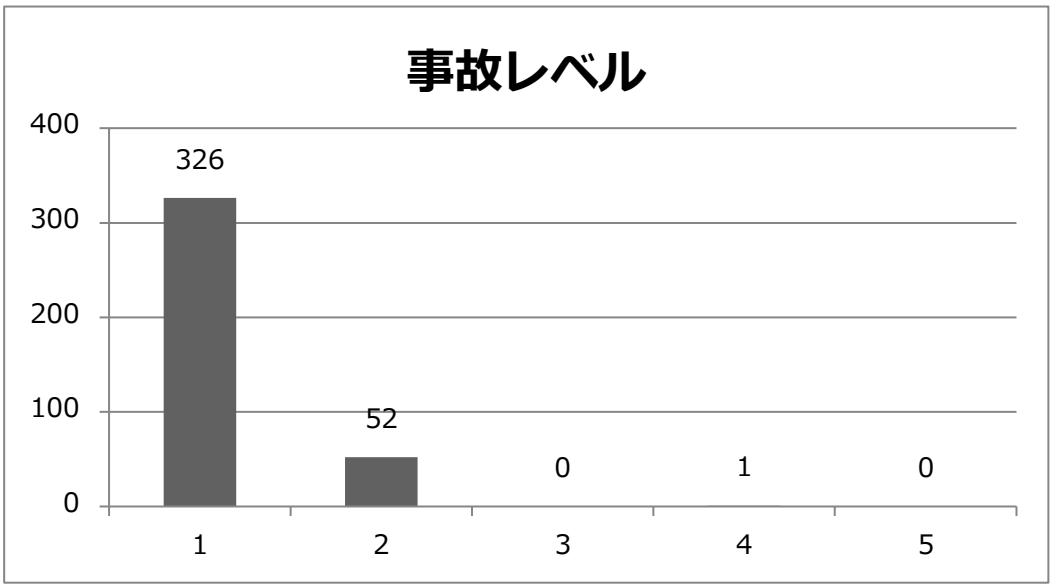
結果：
事故報告集計



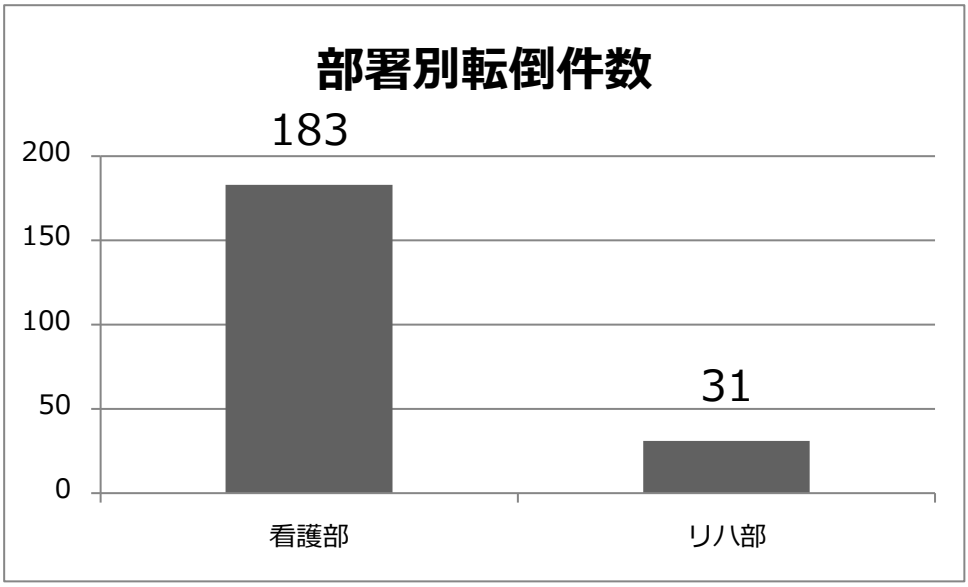
事故の内訳


事故の内訳
250
200
150
100
50
0
214
34
33
9
8
6
5
4
4
4
4
4
3
3
3
3
2
2
2
2
2
2
2
2
22
転倒
誤薬（自己管理）
NGチューブ自己抜去
離棟
内服忘れ（セット・確認ミス）
誤配膳
離院
血糖測定忘れ
誤薬（患者誤認）
内服忘れ（自己管理）
内服忘れ（ベッドネーム）
表皮剥離
アレルギー禁食を提供
インスリン施行忘れ
指示変更忘れ
切創
異食
異物混入
インスリン用量ミス
誤薬（重複投与）
自己抜針（点滴）
食形態のミス
内服セットミス
発注ミス
その他

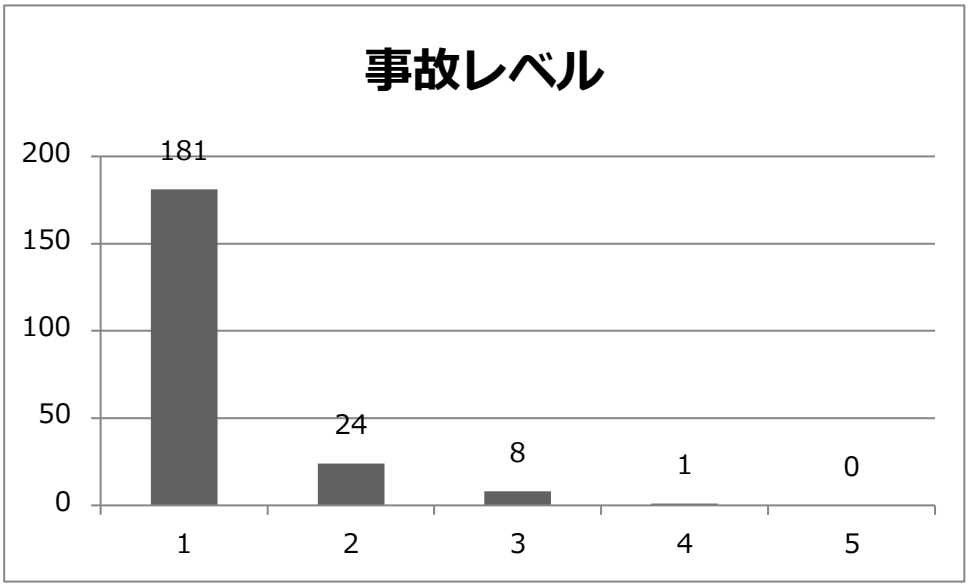
事故レベル


事故レベル
400
300
200
100
0
326
52
0
1
0
1
2
3
4
5

転倒報告書集計



事故レベル（転倒）



レベル	内容	インシデント/アクシデント	報告書
0	出来事は起きかけたが、患者には実施されなかった	インシデント	ヒヤリ・ハット報告
1	出来事は起こったが、患者には何の問題もなかった	インシデント	事故報告書
2	バイタルサインに変化はないが、観察強化や処置・検査の必要性が生じた	インシデント	事故報告書
3	バイタルサインに変化が生じ、濃厚な処置や治療が生じた	アクシデント	事故報告書
4	後遺症が残る可能性が生じた	アクシデント	事故報告書
5	死亡した	アクシデント	事故報告書

研修会：

第 1 回事故対策研修会

日時　　：令和 2 年 11 月 5 日（木）

場所　　：院内 LAN

テーマ	発表者
新型コロナウイルス感染を乗りこえるための説明書	副院長、感染対策委員長 石松義弘
診療放射線の安全利用についての研修会	放射線課 坂口龍子
従業者に対する医薬品の安全使用のための研修会	医薬品安全管理者 守　秀夫

第 2 回事故対策研修会

日時　　：令和 3 年 3 月 30 日（火）

場所　　：院内 LAN

テーマ	発表者
新型コロナウイルス感染症の“いま”に関する 11 の知識	副院長、感染対策委員長 石松義弘
看護部事故報告のまとめ	看護部副院長 金山萬紀子
事故対策委員会　リハビリテーション部 2020 年度上半期	リハビリテーション部課長 古江伸志
通所リハビリ 令和 2 年度転倒・ひやり	通所リハビリテーション　課長 森下祐介

医薬品安全管理委員会

文責：薬剤課　課長　　守　秀夫

委員会開催日：毎月１回　第１木曜日

令和 ２年　6 / 4 、7 / 2 、8 / 6 、9 / 3 、10 / 1 、11 / 5 、12 / 3

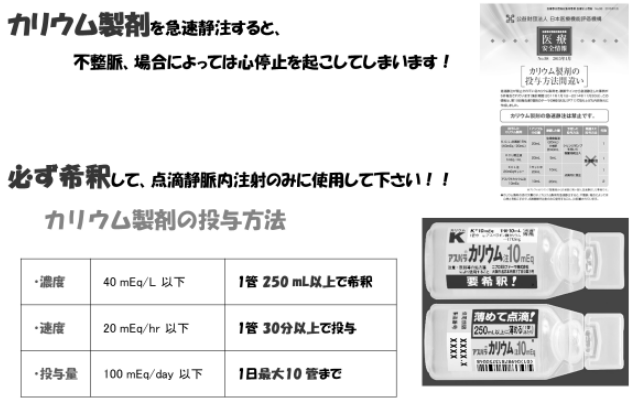
令和 ３年　1 / 7 、2 / 4 、3 / 4

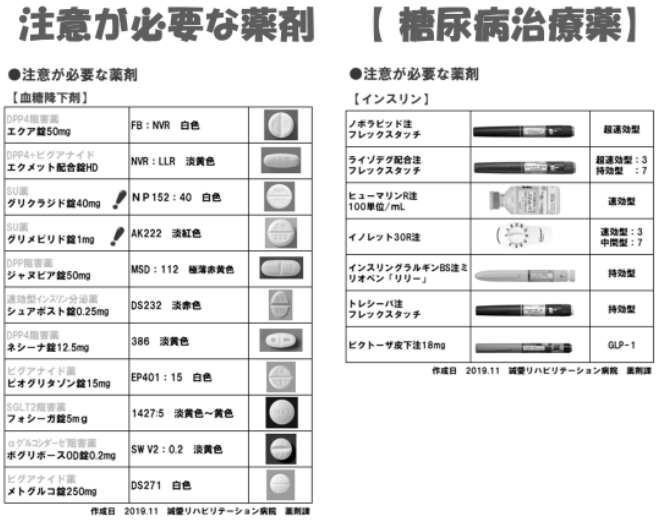
構成メンバー：院長（委員長)、医局１名、看護部２名、リハビリテーション部１名、診療部４名、管理部１名、カトレア１名、福祉１名

計 12 名

活動内容：

- 使用上の注意の改訂情報の報告による、医薬品の適正使用の推進
- 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の見直し
- 医薬品の業務手順書に基づく業務実施の定期確認
- 従業者に対する研修の実施





医療機器安全管理委員会

文責：検査課　課長　村瀬　朗

委員会開催日：毎月第一木曜日　13：00～（事故対策委員会の中で開催）
令和 2 年　6/4、7/2、8/6、9/3、10/1、11/5、12/3、
令和 3 年　1/7、2/4、3/4
今年度は新型コロナウイルス感染防止の関係上４～５月は会議室に集まる委員会を中止し６月から web 会議を導入した

構成メンバー：院長（委員長）、医局 1 名、看護部 2 名、リハビリテーション部 1 名、管理部 1 名、診療部 4 名、カトレア 1 名、福祉部 1 名
計 12 名

活動内容：
・医療機器の点検整備計画に従って各医療機器メーカーに点検の手配を行い、点検の実施を確認した。
・日本医療機能評価や医薬品医療機器総合機構等から出される「安全情報」の収集に努め委員会を通じて情報発信し注意喚起を行った。

研修会：
入職時オリエンテーション
令和２年４月
・医療機器安全管理委員会について
（今年度は新型コロナウイルス感染防止のため研修内容を当院掲示板にて報告し各自で研修を行った）

院内感染対策委員会

文責：副院長　石松義弘

委員会開催日：毎月第２火曜日 13:40～
　令和２年　4/01、5/12、6/09、7/14、8/11、9/08、10/13、11/10、12/08、
　令和３年　1/12、 2/09、2/18、3/09

構成メンバー：医局２名（院長、医局医師）、看護部７名（看護部長および各病棟および外来からそれぞれ１名）、管理部長、診療部３名(検査課１名、薬局１名、栄養課１名)、リハビリ部１名　計 14 名

活動内容：
院内感染の予防に留意し、感染流行発生の際には拡大防止のため、その原因の速やかな特定・制圧・終息を図る。このため、組織の有効活用と職員一人ひとりのマニュアルの遵守等を徹底し、院内感染対策に努める。

結果：
　令和２年度(昨年度)は、インフルエンザの流行はほとんど見られず、当院でも罹患者の報告はなかった。感染性胃腸炎の罹患者数は職員８名と散発例のみであった。また、流行性角結膜炎は職員３名が散発的に発症したが、感染対策を実施して終息を確認した。薬剤耐性菌に関しては、MRSA、緑膿菌、大腸菌などの持ち込みを認めたが、院内で流行することはなかった。新型コロナウイルス感染症対策を実施していることも影響していたのか、それ以外の院内感染はあまり問題になることはなかった。
　令和元年 12 月末より中国武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が世界的大流行(パンデミック)となり、日本での第１例が令和２年１月、福岡県の第１例が令和２年２月に見つかり、日本全国へと広がった。大規模な流行となるとともに、深刻な院内感染を引き起こして多数の死者を出したため、当院でも厳重な院内感染対策を実施した。
(1)新型コロナウイルス感染症の流行の広がりに応じて、当院の院内感染対策計画(後述)を計画して実行した。
(2)外部からコロナウイルスが侵入する危険性をできるだけ減らす方策を実施すると共に、院内に侵入しても大きな院内感染に拡大しないように予防対策を実施した。
(3)院内で患者さんが見つかり、院内で流行する危険性に対応するために、個人防護具や病室配置や環境整備の準備や、職員の配置変更や職員訓練を実施した。
(4)更に、院内感染対策回診(ICT ラウンド)を定期的に実施した。毎週、各病棟でチェックリストをもとに感染対策委員会メンバーが見回りを実施した。
以上のような対策を実施していたが、令和３年１月に、当院の職員経由での新型コロナウイルス感染症の院内流行を認め、職員３名と入院患者さん２名の感染を確認しクラスター(5 名以上)となってしまった。一つの病棟を閉鎖し、入退院の制限、職員の出

入りの制限、リハビリ訓練中止等の厳重な対策を実施して、初期の感染者以上に拡大することなく収束し、通常の病棟業務とリハビリテーション訓練を再開するまでに、約１カ月間を要した。長期間にわたる病棟生活と治療訓練の制限を必要として、入院患者さんに多大な迷惑をおかけしたことを、深くお詫び申し上げます。新型コロナ感染症の院内感染の影響の大きさを深刻に受け止め、クラスターを出したことを深く反省し、今後とも厳重な警戒を継続していきます。

本年度も、医療安全管理の全職員向け研修会として、院内感染対策講習会が資料提示とアンケート方式により開催された。令和 2 年 11 月 5 日に「新型コロナウイルス感染症；解説書」について、また、令和 3 年 3 月 30 日には「新型コロナウイルス感染症の今に関する 11 の知識」をテーマに研修会を実施した。

参考資料：誠愛リハビリ病院院内感染対策計画：COVID-19 対策(概略)：

院内に COVID-19 が入ってくるリスクを**できるだけ減らす**【水際対策】→しかし無症状の人がいるので完全には防げない→院内での流行を**できるだけ広げない**【院内感染対策】→【水際対策】と【院内感染対策】を並行して実行する必要がある。**【入ってくることは防げないが、死亡者を出さないことが目標】**

【警報レベル0～5】（誠愛リハビリテーション病院における警報レベルです）

警報レベル0：他国内の流行→2019 年 12 月～2020 年 1 月

・標準予防策の実施・各種情報収集、感染対策計画の準備：

警報レベル1：国際的な広がり：日本国内での散発的流行→2020 年 2 月

・標準予防策の徹底、接触・飛沫感染の感染ルート別予防策：(1)手指消毒剤の増設、(2)頻回接触物品表面の消毒。毎朝の体調と体温チェック。不要不急の『お見舞い、入院患者さんの外出、外泊、人混みへの外出訓練』を中止。

警報レベル2：日本国内の一般的な流行 or 福岡県での患者発生(散発例)(3 月～)

・外来リハビリと通所リハビリ・短時間通所リハビリは必要性と危険度を判断して実施。フィットネス、あいあい教室は中止、外来診察は、できる限り長期投与とする。

・毎朝、職員と患者の有熱者の報告を行い、対応を協議し素早く実施。

警報レベル3：筑紫地区での流行 or 近隣病院での院内感染：【ウイルスが院内の入り口まで来た状態】（2020 年 4 月～5 月、その後、第 1 波から第 6 波までを繰り返す）

・外来リハビリ・通所リハビリ、及び、外来診察は、１－２週間以内に症状がある場合などの制限付きで注意して継続。

・入院患者のリハビリは、間隔をあけて継続、病棟ごとに場所を分散。

・発熱などの呼吸器風邪症状のある入院患者は、個室隔離・ゾーニングを実施。

・院内の会議はネット会議。職員食堂や更衣室は間隔をあけて利用、または利用時間をずらして集中を避ける。スタッフルームの職員を分散してリスク低減を図る。

・家族面会は全面中止。洗濯物の受け渡しサービス、ビデオ通信サービスを実施する。

警報レベル4：当院で院内散発例：【ウイルスが院内に入ってきた状態：強く疑われる状態】

警報レベル5：当院で院内流行：【ウイルスが院内で流行している状態】(2021 年 1 月)

流行期間中には当該病棟は閉鎖して、入退院を制限、病棟業務を必要最小限に制限、リハビリテーションは中止して厳重に経過観察し、予防的隔離、早期発見、定期的検査、等を行い、院内流行を囲い込み、収束を図る。

防災委員会

文責：管理部　次長　大庭慎也

委員会開催日：必要に応じ随時
　　令和２年　8/28

構成メンバー：院長（委員長）、管理部３名
　　計４名

活動内容：
火災通報・消火・避難訓練の計画を立案し、その実施を行う。
令和２年度の第１回目として資料配布による消防に関する情報共有を行った。
第２回目は部分訓練を行う予定であったが、新型コロナ感染予防につき延期となった。
その他、毎月１回の消防用設備点検の実施を行っている。

結果：
第１回
　日　　時：　令和２年８月 28 日
　訓練内容：　消火・通報及び避難誘導訓練の資料を全職員に配布し、消防に関する情報を共有した。

医療ガス安全委員会

文責：管理部　次長　大庭慎也

委員会開催日：年１回
　　令和２年　8/6

構成メンバー：院長（委員長）、看護部８名、管理部２名、薬局１名
計 12 名

活動内容：医療ガスの保守点検

結果：
①毎日の点検は各病棟で実施している。
②医療ガス機械室については、総務課にて毎日の点検を実施し、
記録を残している。
③令和２年８月６日～8 月 7 日に医療ガス設備の保守点検を実施。
（業者）　株式会社　朝日酸素商会
（点検結果）　・アウトレット部門のパッキン等を交換
・他は特に異常なし
④令和元年度の質疑・要望にでた問題点の結果報告
（要望）　・特になし。
⑤今後の要望
・特になし。

労働安全衛生委員会

文責：人事課　課長　高見　愛

委員会開催日：

毎月　　第１週火曜日　13：00～13：20
令和２年　（書面）　4/7、 5/12、 6/2、 7/7、 8/4、9/1、10/6、
令和３年　（Web）　1/12、 2/2、 3/2

10 回開催

構成メンバー：

委員長　　統括管理者　１名
産業医　　１名
衛生管理者　３名
施設管理者　誠愛リハビリテーション病院　１名
　　介護老人保健施設カトレア　　１名
　　訪問看護ステーション誠愛　　１名
　　居宅支援事業所カトレア　　１名
職員代表　　看護部　１名、リハビリテーション部　２名、
　　福祉部　１名、診療部　１名、管理部　２名、カトレア　１名

計　16 名

活動内容：

労働安全衛生法　第 19 条に基づき、労働災害ゼロ、職員のための快適な職場環境維持の推進、健康増進の推進を目的に活動している。

結　　果：

①年度初に年間安全活動計画を立案し、計画に基づき実施。
②毎月、会議において前月発生した業務上災害等の報告、予防対策の検討等。
③安全かつ衛生的な職場環境の維持増進のため、チェックリストに基づき、衛生管理者は毎月職場の巡視を徹底。
④雇入時健康診断及び定期健康診断の結果に基づくフォローアップの徹底。
⑤長時間労働による健康障害防止を図るための対策。
⑥ストレスチェックの実施に関する審議。

公用車運行管理委員会

文責：総務課　課長　広松健志

委員会開催日：月１回（第１週の金曜日）12:50～13:15
2020 年 4 月以降は、コロナウイルス感染症予防の為、
委員会は未実施。

構成メンバー：管理部・リハビリ部・福祉部・訪問看護・カトレア・居宅より
各１名
計 6 名

活動内容：公用車の運行管理・保守および公用車における交通事故防止に関する協議を行う。

活動結果：（1）公用車の運行管理・保守
①運転日報を精査する。
②公用車の定期点検の打合せ及び車輌入替えの報告をする。
③公用車の使用手順を見直し各部署に伝達する。
④公用車が故障した場合の対処方法を打合せ各部署に伝達する。

（2）交通事故等の未然防止策の協議
①事故報告を基に再発防止策を協議し各部署に伝達する。
②交通違反の事例を基に未然対策を協議し各部署に伝達する。
③交通事故発生時の対処マニュアルを作成し各部署に伝達する。
④安全運転に関する説明及び議論を行ない各部署に伝達する。

。

個人情報保護委員会

文責：管理部長　今村洋一

委員会開催日：随時
　　2020 年　4/1

構成メンバー：管理部長(委員長)、看護部１名、リハビリ部１名
管理部４名、カトレア１名
　　計 8 名

活動内容：
「個人情報保護に関する基本方針」に基づき医療情報の管理と、患者さんの個人情報保護を厳重に行うため、諸規程の整備・職員教育等を行っている。

結果：第１回
　　開催日 ：2020 年 4 月 1 日
　　場　所 ： 研修室
　　活動内容: 新入職員に対する入職時研修(スライドによる説明)
　　本年度入職の職員に対して個人情報・情報漏洩対策についてのオリンテーションを行った。

薬事委員会

文責：薬事委員会 委員長　郷田治幸

委員会開催日：第４水曜日 12:00～
（新型コロナウイルス感染予防のため回覧による開催を行なった。）
2020 年　4/22、6/3、7/1、8/3、8/26、10/28、12/28
2021 年　1/27、2/24

構成メンバー：医師 14 名、
薬剤師１名、
看護部３名（オブザーバー参加）、計 18 名

活動内容：医薬品適正使用について、具体的な方法の検討。
新規採用薬品・採用中止薬品の検討。
後発医薬品の導入推進。
特別採用薬を含む、在庫薬品の把握と運用。
副作用の発生報告と対処の検討。
その他、薬剤情報の伝達。

結果：

（１）　新規採用薬

1. 先発品の新規採用

・セフメタゾン静注用 1g（449 円/バイアル）
耐性菌を考慮し、医局より採用希望。

2. 後発品の新規採用

・リセドロン酸 Na 錠 75mg「トーア」（646.6 円/錠）
月 1 回製剤採用のため。

・スミルスチック（260 円/1 本 40g）
消炎鎮痛外用剤で、固形軟膏剤の新規採用。

・エゼチミブ錠 10mg「DSEP」（63.1 円/錠）
高脂血症治療薬ゼチーア（先発品 1 錠 173.2 円）の後発品。流通面などを考慮し、オーソライズドジェネリック製品を採用。

・メマンチン OD 錠 10mg「DSEP」（91.5 円/錠）
現在メマンチン OD 錠 5 mg「DSEP」（51.1 円/錠）、メマンチン OD 錠 20mg「DSEP」（163.6 円/錠）を採用しているが、メマンチン OD 錠 20mg を半錠とした場合、降圧薬であるテルミサルタン OD 錠 20mg「サワイ」と外観が類似している。調剤過誤防止のためメマンチン OD 錠 10mg 錠「DSEP」（91.5 円/錠）を新規採用。

（２） 既存の採用薬の見直し

1. 先発品→後発品への切り替え

・リフレックス錠 15mg（118.3 円/錠）→ミルタザピン錠 15mg「明治」（41.3 円/錠）
福岡県の基幹病院採用薬リストにてオーソライズドジェネリックである明治製品が最も多くの施設で採用されている。

・ゲンタシン軟膏 0.1%（110 円/1 本 10g）→ゲンタマイシン軟膏 0.1%「タイヨー」（69 円/1 本 10g）
福岡県の基幹病院採用薬リストに掲載されている。

・プリンペラン錠 5mg（6.5 円/錠）→メトクロプラミド錠 5mg「テバ」（5.7 円/錠）
福岡県の基幹病院採用薬リストに掲載されている。

・セレコックス錠 100mg（69.0 円/錠）→セレコキシブ錠 100mg「ファイザー」（19.6 円/錠）
医療機関での採用数が多く、流通の安定しているオーソライズドジェネリック製品。

・メマリーOD 錠 5mg（134.7 円/錠）、メマリーOD 錠 20mg（429.5 円/錠）→メマンチン OD 錠 5 mg「DSEP」（51.1 円/錠）、メマンチン OD 錠 20mg「DSEP」（163.6 円/錠）
流通面などを考慮し、オーソライズドジェネリック製品を採用。

・エディロールカプセル 0.75μg（98.2 円/カプセル）→エルデカルシトールカプセル 0.75μg「サワイ」（35.5 円/カプセル）
流通が安定している沢井製品を採用。

・プロクトセディル軟膏 2g（44 円/個）→ヘモポリゾン軟膏 2g（13.9 円/個）
メーカーより自主回収のため、同一成分ではないが、強力ポステリザン軟膏の後発品であり薬価の安い製品へ採用変更。

・ビソルボン錠 4mg（5.8 円/錠）→ブロムヘキシジン塩酸塩錠 4mg「日医工」（5.1 円/錠）
ビソルボン錠の販売中止のため、流通面を考慮し、日医工製品を採用。

・リリカ OD 錠 25mg（65.2 円/錠）、OD 錠 75mg（108.8 円/錠）→プレガバリン OD 錠 25mg「ファイザー」（21.8 円/錠）、75mg「ファイザー」（36.3 円/錠）
流通面などを含めて検討し、オーソライズドジェネリック製品を採用。

・アボルブカプセル 0.5mg（214.0 円/カプセル）→デュタステリドカプセル 0.5mgAV「武田テバ」（59.3 円/カプセル）
流通面などを考慮し、オーソライズドジェネリック製品を採用。

2. 先発品、後発品の見直し

・ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「日医工」（6.1 円/錠）→ベタヒスチンメシル酸塩錠 6mg「J D」（6.1 円/錠）
自主回収のため。

・ニコランジル錠 5mg「日医工」（5.9 円/錠）→ニコランジル錠 5mg「トーア」（5.9 円/錠）

自主回収のため。

・オーグメンチン配合錠 250RS（45.7 円/錠）→オーグメンチン配合錠 125SS（31.8 円/錠）

吸湿性が高く服用時に PTP 包装からの取り出しが必要であるため、割錠調剤や分包不可である。嚥下に問題のある場合に、錠剤が飲み込みづらいため、小型錠へ変更。

・サルボグレラート塩酸塩錠 100mg「MEEK」（43.9 円/錠）→サルボグレラート塩酸塩錠 100mg「サワイ」（43.9 円/錠）

小林化工営業停止のため。

・ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「KN」（8.8 円/錠）→ピコスルファートナトリウム内用液 0.75%「CHOS」（8.8 円/錠）

小林化工営業停止のため。

・アマルエット配合錠 1 番「EE」（22.3 円/錠）→アマルエット配合錠 1 番「ケミファ」（22.3 円/錠）

小林化工営業停止のため。

・オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「明治」（11 円/錠）→オロパタジン塩酸塩 OD 錠 5mg「サワイ」（11 円/錠）

小林化工営業停止のため。

・モンテルカスト OD 錠 10mg「EE」（29.1 円/錠）→モンテルカスト OD 錠 10mg「サワイ」（71.9 円/錠）

小林化工営業停止のため。

・ラロキシフェン塩酸塩錠 60mg「EE」（39.4 円/錠）→ラロキシフェン塩酸塩錠 60mg「サワイ」（39.4 円/錠）

小林化工営業停止のため。

・パロキセチン錠 10mg「サンド」（26.3 円/錠）→パロキセチン錠 10mg「明治」（26.3 円/錠）

サンド製品の一部製造中止に伴い、流通面に問題なく、識別性も高い後発品を採用。

・ロキソプロフェン Na テープ 50mg「EE」（12.3 円/錠）、ロキソプロフェン Na テープ 100mg「EE」（12.3 円/錠）→ロキソプロフェン Na テープ 50mg「ユートク」（17.8 円/錠）、ロキソプロフェン Na テープ 100mg「ユートク」（17.8 円/錠）

小林化工営業停止のため。

・モンテルカスト OD 錠 10mg「サワイ」（71.9 円/錠）→モンテルカスト OD 錠 10mg「タカタ」（29.1 円/錠）

小林化工営業停止に伴い、沢井製品へ変更し、薬価が高くなっていたが、薬価の安い高田製薬製品の納入が可能となったため。

・クロモグリク酸 Na 点鼻液 2%「科研」9.5mL（446 円/瓶）→ケトチフェン点鼻液 0.05%「サワイ」6.048mg8mL（283.2 円/瓶）

販売中止のため、代替品として、薬価、流通面を考慮し、沢井製薬製品へ変更。

・リスペリドン内用液 1mg 分包「ファイザー」（44.6 円/包）→リスペリドン内用

液 1mg/mL「アメル」0.1%（29.2 円/包）
販売中止のため、流通面に問題なく薬価も安くなることより。

3. その他

・ベオーバ錠 50mg（184.1 円/錠）が品薄のため、供給停滞し、販売元より処方制限の依頼があった。ベオーバ欠品時、新規開始時はベタニス錠 50mg（180.1 円/錠）へ処方変更を依頼。

（3） 特別採用薬の在庫管理

特別採用の在庫表を毎月更新し、不動在庫となっている特別採用薬の使用を促した。

（4） まとめ

先発品 1 種、後発品 4 種が新たに採用となった。先発品 10 種を後発品へ変更とした。14 種の先発品、後発品の見直しを行った。

給食委員会

文責：栄養課　八尋　玲

委員会開催日・開催頻度：第２木曜日　12：40～13：00

構成メンバー：医局１名
看護部各病棟より１名ずつ
リハビリ部（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、各１名）
薬剤師１名
栄養課５名（病院管理栄養士４名・委託側支配人１名）

活動内容：
日頃の食事内容、食事提供について検討を行い、改善解決を図る。
また、新製品の栄養補助食品、経腸栄養剤などについて紹介及び検討を行う。

経過・結果など：
・栄養補助食品等の見直し・検討
・嗜好調査を年２回実施。
・ノロウイルス発生時の対応の見直しを実施。
・病棟への介入
・約束食事箋の見直し・検討
・食器等の購入
・朝食のメニュー見直し→変更

摂食嚥下チーム
Eating and Swallowing Team（ＥＳＴ）

文責：医師　横山葉子

委員会開催日：毎月第２水曜日 12：40～（回覧開催含む）
令和２年　7/8、8/12、10/14、12/9

構成メンバー：
医局６名、看護部 10 名、リハビリテーション部６名、栄養課１名
歯科衛生士１名、院外より歯科医師１名　　計 25 名

活動内容：
１）多職種協働による早期経口摂取再獲得の推進
（嚥下評価の迅速化・評価方法の統一・EST 回診の実施による）
２）摂食嚥下機能(食事動作含む)を向上させるために必要な物品・環境の整備
３）歯科/口腔ケア領域との連携

結果：
・EST 回診の実施・多職種協働のあり方の見直し
今年度の EST 委員会活動は、食事という場面に関わるものであるが故に、全国的に拡大する新型コロナウィルス感染症の影響を強く受けた。食事場面をスタッフが巡回するという回診方法は一旦休止せざるを得ず、病棟毎に参加人数を限定したうえでの活動となった。しかし一方で、これまで継続してきた多職種協働が生かされたこともあった。病棟において新型コロナウィルス感染症拡大への対策としてリハビリテーションの提供を休止せざるを得なかった時期に、病棟看護師が、防護に努めたうえで口腔機能訓練を担当し、訓練休止期間の機能低下を防いだ例がそれである。今後も needs-oriented の活動をより一層浸透させていきたい。
永年課題となっていた「他施設との食形態の引継ぎ」に関しては、当院入院中の摂食嚥下・食形態についての情報を、当院からの退院先となる病院・施設と共有するという観点から、今年度「嚥下機能・栄養情報提供書」を作成した。提供カロリーや栄養状態の情報とともに、摂食方法や食形態についても写真つきで申し送ることにより、経口摂取継続のサポートを目指した。

・歯科診療との連携
入院患者全例を対象とした歯科医師・歯科衛生士による口腔内精査は継続中であり、患者およびスタッフの口腔環境に対する関心・理解を高めるのに役立っている。歯科衛生士の活動を通じた訪問歯科との連携により、義歯作成を含めた歯科治療も確実に行われている。入院患者を対象とした歯磨き教室については、密を避ける観点から一旦休止しているが、要望により個別対応は継続中である。

・嚥下内視鏡検査の実施

平成 28 年度に機材を購入し、検査可能な曜日・時間帯が増加し臨機応変な検査対応を可能としている。令和 2 年度の実施件数は 27 件(前年度 34 件、前々年度 23 件)とやや少なめとなっているが、これは新型コロナウィルス感染拡大対策として、4-5 月間は検査の実施を見合わせたことが関連している。臨床現場からの検査実施の要望は強く、関連学会からの情報提供を参考に検査時の感染対策を十分に実施した上で、再開している。これまでと同様、必要時に確実に実施できる検査体制を維持するとともに、安全対策にも留意していきたい。

カルテ開示委員会

文責：医事課　課長　古賀昭臣

委員会開催日：随　時
　令和２年　10/9
計１回
今年度は新型コロナウイルス感染予防のため院長、主治医に確認の上
カルテ開示の準備を進めることとなった。

構成メンバー：
　院長、医局５名、看護部２名、リハビリ部２名、管理部４名
計 14 名

活動内容：
カルテ開示の申込に対する開示範囲の決定

診療に関する情報提供を求める患者さんに適切に対応し、患者さんと医療従事者とのより強固な信頼関係の確保を図ることにより、良質な医療を提供する体制を構築することを目的とする。

実　績：令和２年度のカルテ開示申込件数は１件であった。

開示先		ご本人・ご家族	裁判所・弁護士	警察
開示範囲		全部開示	全部開示	全部開示
開示内容	外来カルテ	0	1	0
	入院カルテ	0	1	0
	電子カルテ（印刷したもの）	0	1	0
	ＣＴ・ＭＲＩ	0	1	0
	一般撮影画像	0	5	0

（件）

倫理委員会

文責：管理部長　今村洋一

委員会開催日：年 2 回定例開催ほか書面開催

2020 年　4/2(定例・書面),10/1(定例・書面)、

2021 年　1/14(書面)

構成メンバー

委員 ： 院長、医局副院長、看護部副院長、リハ部副院長、診療部長

福祉部長、管理部長

予備委員 ： 医局、看護部、リハ部、診療部、福祉部、管理部からそれぞれ１名

外部委員 ： 倫理・法律面の有識者１名、市民の立場の人１名

活動内容：

当院の職員が行う人間(ヒト)を対象とする医学研究ならびに研究的医療行為に関し職員から申請された計画の内容を審査しその成果を公表する。

結果：

第 1 回

日 時 ： 2020 年 4 月 2 日 書面開催

議 題 ： 審査申請課題 8 題（申請内訳 リハ部 8 題）

申請課題 8 題すべて承認。

第 2 回

日時 ： 2020 年 10 月 1 日 書面開催

議題 ： 審査申請課題 5 題(申請内訳　リハ部 5 題)

申請課題 5 題すべて承認。

承認事項の変更 4 題(申請内訳　リハ部 4 題)

変更についてすべて承認。

第 3 回

日時 ： 2021 年 1 月 14 日 書面開催

議題 ： 審査申請課題 2 題(審査内訳　看護部 2 題)

申請課題 2 題すべて承認。

褥瘡対策委員会

文責：看護部　次長　吉村綾子

委員会開催日：第 4 木曜日、13:00～13:30
2020 年　4 月～8 月（ｺﾛﾅ感染予防のため中止）、9/24、 10/22、 11/26、12/24、
2021 年　1/28、2/25、3 月（対象者おらず中止）

構成メンバー：医局 1 名、 看護部 7 名、薬局 1 名、
リハ部 1 名、栄養課 1 名　　計 11 名

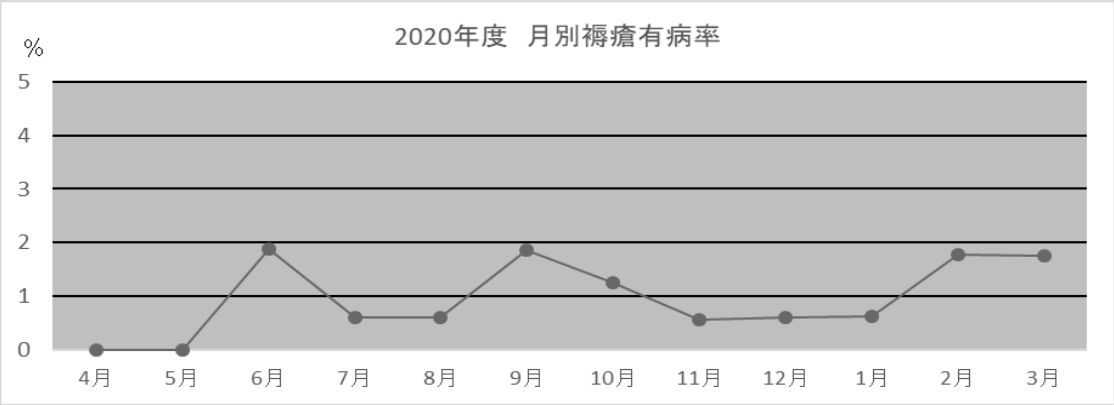
活動内容：

①褥瘡発生時と、週に 1 回専任医師による回診、月に 1 回褥瘡対策委員による回診を実施し、早期治癒に向けて検討を行った。

②褥瘡予防用具としてポジショニングクッションと車椅子クッションが必要な患者に使用できているか、数は足りているかを定期的に確認し、不足分を起案で購入して頂き、配備した。特に重症度が高い病棟が不足していたので、配備した。

結果：

2020 年度の入院患者 711 名中、褥瘡有病者は 10 名で、褥瘡発生ヵ所数は 11 ヵ所であった。平均褥瘡有病率は 0.95%、月別有病率は下図に示す。褥瘡有病者の平均年齢は 79.3 歳、男女比は男性 6 名、女性 4 名で、院内発生 5 名（5 ヵ所）、院外発生 5 名（6 ヵ所）であった。疾患別では脳梗塞 3 名（院内 1 名、院外 2 名）、大腿骨骨折 2 名（院内 2 名、院外 0 名）の順に多かった。部位は仙骨部が最も多く、深達度はⅡ度が 64%を占めており、Ⅲ度が 27%、Ⅰ度 9%であった。平均治癒日数は院内発生が 18.6 日、院外発生においては当院入院日からの平均治癒日数は 36 日であり、院内発生に比べ院外発生の方が治癒の遅延に至っている。これは院外発生患者の方が褥瘡重症度が高く、入院時日常生活機能評価の平均値は 13.4/19 点、FIM 平均値は 31/126 点で自力体動困難な重症患者が多かったことが考えられる。



図書管理委員会

文責：医師　砥上妃美子

委員会開催日：第 2 週火曜日（3 ヶ月毎）12：30～
本年度は新型コロナウィルス感染症対策のため、メンバーが集まっての会議は実施せず。

構成メンバー：
医局 1 名、看護部 1 名、リハビリテーション部 2 名、福祉部 1 名、管理部 2 名、診療部 1 名

活動内容と結果：

・定期購読雑誌の見直し
各部署の規模に応じて定期購読雑誌の必要性を十分に吟味した上で購読を決定した。

・図書管理規程の確認
各部署間で賃借可能となっている定期購読雑誌（貸出期間 2 週間。各部署の図書委員に申し出た上で貸出簿に記入）の賃借運用が問題無く行えている事を確認した。

・文献検索サービスの検討と更新・運用
平成 25 年 10 月 1 日より「Medical online」に変更となっている（ダウンロードの際は各部署の図書委員へ申請。サーバーの図書情報ホルダー内に新たに文献検索利用状況確認用のファイルを作成し、ダウンロード記録を各部署の図書委員が行う）。変更後、特に問題無く運用できている事を確認し、契約更新を行った。今後も利用を促していく。

広報委員会

文責： 人事課　課長　高見　愛

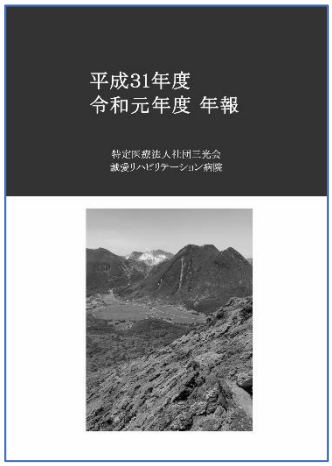
委員会開催日：第４金曜日、12:30～13:00
　　令和３年　　3/26（Web にて実施）

構成メンバー：医局２名、看護部１名、リハビリ部１名、福祉部１名、
　　診療部１名、管理部３名
　　計９名

活動内容：
　①広報誌作成
　②年報作成

結果：
　①広報誌作成
　　１．誠愛タイムズ
　　病院を中心とした記事を掲載し、入院・外来患者、家族、関連施設などへの当院での活動を啓蒙する役割として、本来は年３回の発行を行う。発行部数は、100 部程度で、院内にて閲覧できるよう設置している。また、当院のホームページにも掲載している。今年度の発行は年１回のみとなった。
　　① 令和２年初夏号の内容･･･
　　新任先生紹介、入社式、新入職員挨拶、
　　脳卒中後の運動（筋肉）

　②平成 31・令和元年度年報作成
　平成 31 年度の活動内容・業績などを盛り込み作成。作成後、関連施設や近隣医療機関などへの配布を行った。



サービス向上委員会

文責：医事課　課長　古賀昭臣

委員会開催日：木曜日 9:00～(随時)
今年度は新型コロナウイルス感染予防のため開催なし。
投書あれば随時委員長へ報告を行った。

構成メンバー：
院長（委員長）、医局 5 名、看護部 2 名、リハビリ部 2 名、管理部 4 名
計 14 名

活動内容：
①ご意見箱への投書に対する掲示板を利用しての回答
②対応策の検討、決議、実施
→患者さんからの要望に対して他部署が連携して議論することにより、患者満足に対する意識の向上と、患者サービスの向上を図る。

実績：令和 2 年度の意見箱への投書数は 28 件であった。

	投書数	改　善	注意喚起 その他	計
4月	0			0
5月	0			0
6月	2		2	2
7月	1		1	1
8月	0			0
9月	7		7	7
10月	4		4	4
11月	3		3	3
12月	2		2	2
1月	3		3	3
2月	2	2		2
3月	3		3	3
合計	28	2	26	28

（件）

改善例：トイレに除菌シートの設置

輸血療法委員会

文責：医師　横山葉子

委員会開催日：偶数月の第３金曜日
　　令和２年　6/19、8/21、11/8
　　令和３年　1/4、2/19

構成メンバー：医局１名、検査課１名、薬局１名、
　　看護部５名　　計８名

活動内容：

当委員会では、当院における血液製剤の使用が、「安全な血液製剤の安定供給の確保　等に関する法律」の定めにしたがい安全かつ適正になされるよう、諸問題の調査・検討・審議を行っている。

具体的には、(1) 輸血療法の適応や血液製剤の適正使用に関する規定の作成、(2) 当院における各種血液製剤使用の統計に基づいた血液製剤適正使用の実施計画の作成、(3) 輸血用血液の検査項目・検査術式の選択と精度管理、(4) 輸血実施時の手続き・手順の策定を行い、これらについての問題点を定期的に検証し見直しを行っている。また、継続的に血液製剤の使用状況調査を実施している。さらに、血液製剤の不適正な使用事例が認められた場合には、主治医からのヒアリングも含め症例検討を行って、原因の特定・再発防止策の検討・関係者へのアドバイスを行い、輸血療法に伴う事故・副作用・合併症が発生した場合には、事故対策委員会などと緊密に連携し、事例の内容・発生要因・改善策などについて検討を行うことも当委員会の役割である。

結果：

令和２年度の院内での血液製剤使用は１件であり（「照射赤血球液-LR「日赤」」２単位、令和３年１月 14 日実施)、実施中および実施後に問題は生じなかった。今回の輸血は、輸血前検査を平成 31 年度に外注検査に変更したのち初めて実施されたものであり、院内の「輸血申込み伝票」や「輸血実施マニュアル」のうち実情に合ってない点について指摘を受けたため、速やかに修正を行った。

その他、日本赤十字社や福岡県赤十字血液センターからの通知事項を逐次確認し、輸血関連情報の更新と関係部署への周知徹底を図った。

Nutrition Support Team（ＮＳＴ）委員会

文責：栄養課　八尋　玲

委員会開催日：毎月第２木曜日、12：40～13：00（リモート会議）

回診：　毎月第２木曜日
NST 委員会にて実施（コロナの影響により未実施）

構成ﾒﾝﾊﾞｰ：
医局１名、栄養課４名、検査１名、薬局１名、ST１名、PT１名、OP１名
看護部各病棟より１名

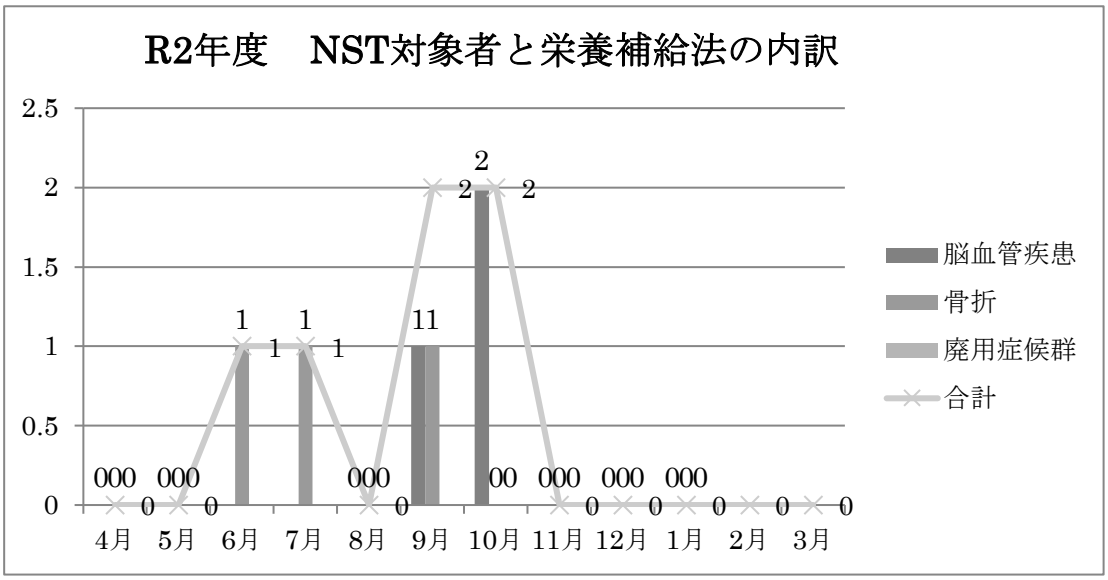
目的：
患者の栄養状態の評価、管理を行い、全ての患者が最もふさわしい栄養管理法を受けることで早期退院、社会復帰を助け、QOL を向上させるため病院職員が一丸となって取り組むべき対策をより効果的・効率的に機能させるべく任に当たることを目的とする。

令和２年度活動状況：
昨年度と同様、今年度も各月に対象患者を抽出し症例検討を行う。
・看護師や管理栄養士による MNA 評価（高齢者のための栄養スクリーニング）実施。
（簡易ｱﾝｹｰﾄ、BMI、ふくらはぎの周囲長により数値を記入しそれらを加算してスクリーニング値より評価（最大 14 ﾎﾟｲﾝﾄ））
・管理栄養士にて入院時の栄養スクリーニングと定期的なモニタリング実施。
（BMI、MNA 評価結果、食事摂取状況、採血結果などを確認。）
・検査課にてアルブミン 3.0g/dl 以下に該当する患者抽出。
（Alb、BUN、Cre、TC、ChE、CRP、WBC、Hb、総ﾘﾝﾊﾟ球数）
・NST 対象患者の状態、摂取量の把握、使用薬剤、今後の方針や方向性などについて報告及び検討し今後の栄養管理法や問題点について協議。
・経鼻経管栄養から 3 食経口食に移行した患者について 25 年度より回診を開始。

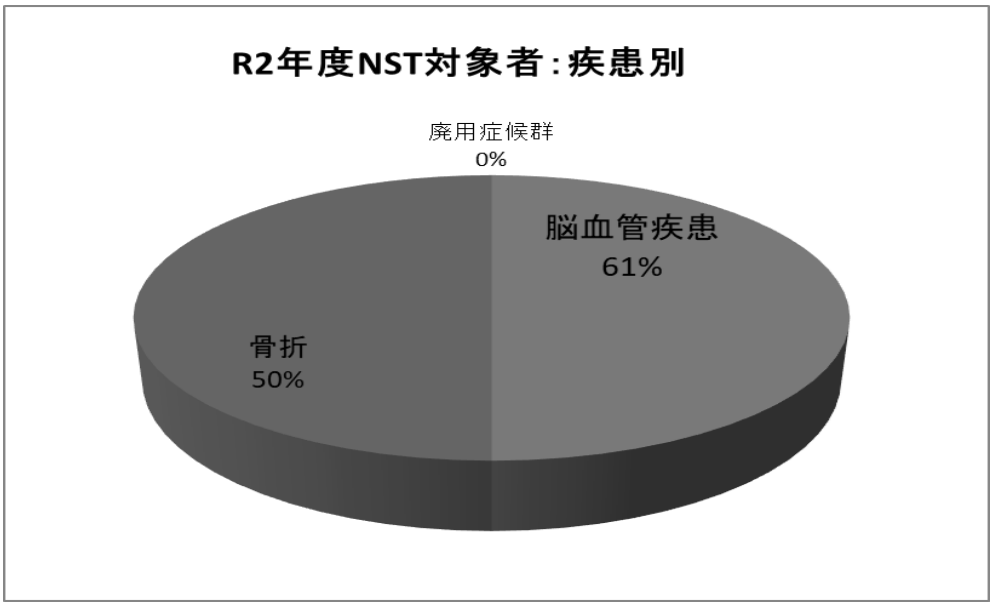
26 年度より新患患者の NST 介入基準を検討し、入院時の MNA スコア 7 ポイント以下でアルブミン 3.0g/dl 以下あるいは褥瘡がある、どちらか１つでも該当すれば NST 対象とした。また在院患者についてはアルブミン 3.0g/dl 以下で食事摂取量、体重減少、褥瘡の経過について検証を行い栄養評価にて NST 介入の有無を判断することとした。また共有フォルダに NST カンファレンスシートを作成することにより、主治医、看護、リハビリ部、薬局、検査といった多職種で情報を共有できるようになった。シートを月毎に並べて作成することにより、継続介入に関しては前月との比較がしやすくなった。

本年度はコロナの影響により病棟回診は中止となり、また管理栄養士が１名増員し病棟内の担当者同士で話し合うことができている。
その中でも対象者をみてみると、脳血管疾患 61%で骨折 50%であった。
今後も患者様の栄養状態を定期的に評価し適切な栄養量、食形態、投与方法等を検討・管理し、患者様の栄養状態の改善に努めたい。

●R2 年度各月の NST 対象患者数と栄養補給法の内訳



●R2 年度：NST 対象患者の疾患別内訳



フットケア（Foot Care Team; FCT）委員会

文責：医師　江藤真弓

委員会開催日：毎月第４月曜日 13:00～
令和２年　8/24、10/26、11/30
令和３年　2/22、3/22
＊本年度は新型コロナウイルス感染予防のため、緊急事態宣言下や感染者増加時期は委員会開催が中止となった。

構成メンバー：
医局１名（医局医師）、看護部５名、リハビリ部５名
計 11 名

活動内容：
1）足病変の早期発見とフットケアを行う。
2）フットケアに関する院外の勉強会への参加。

結果：
・入院患者の足病変のチェックとケア
これまでは、フットケア指導士の資格を有する看護師が入院時に患者全員の足の観察を行い、足浴や保湿など必要なケアを病棟に指示していた。本年度は新型コロナウイルス感染拡大により緊急事態宣言が発出されたことなどから入院時の足の観察を一旦中止し､発熱や PCR 検査の結果を見て１週間後に観察するように変更した。その間は病棟スタッフが観察するようにしていたが、観察できていないケースも多く、フットケア指導士に依存している現状がみられた。
・外来患者のフットケア
外来リハビリ患者の胼胝鶏眼処置を行っていたが、コロナウイルス感染対策として動線が交わらないようにするためにリハビリ患者と外来診察患者の入り口を分けたことにより、リハビリに来て気軽に外来受診をするのが難しくなった患者がいた。
・院外勉強会
12 月 11 日　第３回六本松フットケアミーティングが WEB 開催された。移動時間を考慮しなくてよいので、参加しやすい。今後は学会や研究会など WEB 開催が増えると思われ、積極的な参加を促したい。

本年度は新型コロナウイルス感染予防のため、活動の方法に変更や工夫が必要であった。令和３年５月時点でも感染拡大は続いており、今後もフットケアの充実を図るための方法を模索していく必要がある。

認知症ケアチーム(Dementia Care Team; DCT) 委員会

文責：医師　砥上妃美子

委員会開催日：第３週 木曜日 13：00～
本年度は新型コロナウィルス感染症対策のため、メンバーが集まっての会議は実施せず。

構成メンバー：
医局１名、看護部６名、リハビリテーション部６名

活動内容と結果：
高齢化社会の進行と共に、認知症の患者も増加している。入院による環境の変化もあいまって症状が悪化し、身体拘束や薬物加療による過鎮静により身体機能や認知機能が更に低下し、寝たきりの患者が増加することが懸念される。認知症ケアチームは認知機能低下の進行や、周辺症状の出現・悪化を予防するケアやリハビリテーションを提供し、寝たきりを防止する事を目的に発足した。
本年度は新型コロナウィルス感染症対策のため、例年行っていた各病棟での集団活動や認知症ケアチーム内・病院スタッフへの勉強会の実施、院外勉強会の参加は行えなかったが、各病棟で、患者個々に対する以下の取り組みを重点的に行うことで認知機能低下の進行や、周辺症状の出現・悪化の予防に努めた。しかし、各病棟での集団活動の必要性を強く感じた１年であった。

・入院環境の整備
・患者に合わせた介入法の検討・実施
・入院時・入院中・退院時の評価

排泄ケアチーム(Continence Support Team; CST)委員会

文責：医局　渡邊義将

委員会開催日：毎月第３木曜日 15:30～
2020 年　6/18、7/16、8/20、9/17、10/15、11/19、12/17
2021 年　2/18、3/18

構成メンバー：
医局１名、看護部 11 名（看護師 6 名、介護福祉士 5 名）、
リハビリテーション部１名　　計 13 名

活動内容：
1. 患者さんの自尊心を考慮した排泄ケアの実践
2. 退院後の生活を見据えた排泄ケアの計画立案・実践および患者・家族指導
3. 院内での排泄ケア向上のための助言・指導

結果：
（１）委員会活動等
昨年度の 3 月から引き続き、新型コロナウイルスに対する院内感染対策に従って、今年度は 5 月まで委員会の開催を見合わせた。6 月より委員会を再開し、感染対策強化の目的で 12 月からは Web 開催へ変更したが、1 月は当院での新型コロナウイルス院内感染発生に伴い中止とせざるを得なかった。
今年度は、委員会において 23 例の事例検討を実施。標準化した患者アセスメントシートと排泄チェックシート を活用し、排泄パターンおよび基礎疾患・障害、内服薬、患者・家族の生活背景等についての考察に基づいたプランニングとケアを行っている。
排泄動作に関連した FIM（排尿・排便コントロール、ベッド・トイレ移乗、移動、トイレ動作、下衣更衣の 7 項目 49 点）を用いた定量的なスケールで排泄自立度の客観的アウトカム評価を行う症例が増えてきた。しかし、委員会で介入を行う難しい症例においては、患者・介護者のニードや負担をより細かに評価・検討する必要性も高い。以前より、移動・トイレ動作を含めた一連の排泄動作を細分化して分析的に評価するチェック表の導入も検討されてきたが、症例検討において、このチェック表を用いて重点的に介入すべき点を明らかにする試みもなされるようになってきた。また、動作面以外の患者 QOL に配慮した介入として、患者が絵・文字カードに附したナンバリングの数字を示して排泄介助を依頼することで羞恥心を軽減するなどの工夫も行なっている。
排尿障害の症例において、膀胱用超音波診断装置「リリアムα-200」を用いた残尿測定は各病棟でルーチンに行われている。患者間や測定者間のデータのばらつきは大きいため、適宜導尿も行いデータ解釈の一助とするよう指導も行っている。
今年度は、各病棟の車椅子トイレの環境に関する横断的調査も行なった。当院では病棟の築年代の違いにより、同じ回復期病棟であるにもかかわらずトイレ環境が病棟間で大きく異なっている。今回、各病棟間で問題点の抽出と共有を行い、今後のトイレ環境

の改善に向けての提言を行なっていくこととした。今年度は手始めとして、ペーパータオルのホルダーの形状について検討を行い、片麻痺患者や立位不安定な患者でも引き出しやすいものに変更することを委員会として提案し、院内全体で取り替えていただいた。

（２）今後の課題

今年度は、新型コロナウイルス対策のため、病棟をまたいで委員会メンバーが集まることが難しく、全体を通して委員会活動が低調となってしまったことは否めない。また、院内での勉強会を行うのも容易でなく、院外の研修会への参加も困難であった。

超音波装置による残尿測定について、適応症例や測定法・評価法の標準化はいまだにできていない。

排便姿勢の補助具の導入を以前から検討中であるが、各病棟の車椅子トイレの環境の違い（前方ボード等の補助具の設置状況など）により、必要性や適切な形状が異なるため、コスト面や利便性も含め総合的に検討する必要がある。

以上

編集後記

毎年、梅雨に入る前に大まかな年報の編集は終わっていますが、今年は梅雨に入るのが早かったため、梅雨の時期に編集を行っていました。また、内容も「新型コロナウイルス」という単語が多くあり、改めて、令和２年度は新型コロナウイルス感染症が大きな影響があった１年と実感しています。個人的には、編集時期も内容も、いつもと少し違う違和感があり印象に残る作業になりました。感染症対策で多忙な中でも、年報が発行できたことに感謝しています。

広報委員会　年報編集担当　高見　愛

監　　修　　広報委員会

委員長　　長尾　哲彦
委　員　　砥上　妃美子　　上津原　珠美　　中川　拓也
　　澤田　洋子　　飛永　学
　　今村　洋一　　添田　照二　　高見　愛

誠愛リハビリテーション病院　令和２年度年報
発行日　令和３年　９月
発行所　特定医療法人社団三光会　誠愛リハビリテーション病院
　　福岡県大野城市南大利 2-7-2
　　TEL：092-595-1151　　FAX：092-595-1199